10万年の世界経済史
グレゴリー・クラーク 久保恵美子=訳
上
A Farewell to Alms
A Brief Economic History of the World
Gregory Clark
技術進歩が人口増で帳消しになる
「マルサスの罠」の停滞時代がなぜ長く続いたのか?
スミス『国富論』、
マルクス『資本論』に連なる、
人類の何万年もの歩みを描く
"ビッグ・ヒストリー"の試み。
日経BP社
定価(本体2400円+税)

10万年の世界経済史
グレゴリー・クラーク 久保恵美子=訳
下
A Farewell to Alms
A Brief Economic History of the World
Gregory Clark
近代の急激な経済成長をもたらした
勤勉な中産階級的価値観がなぜ生まれたのか?
日本や中国ではなく、英国が
産業革命で先行したのは、
文化的、遺伝的な
「偶然」の産物だった。
日経BP社
定価(本体2400円+税)

図1.1 世界経済史を1つの図で示したもの。1800年以降、多くの国で所得は急増したが、それ以外の国では減少した。

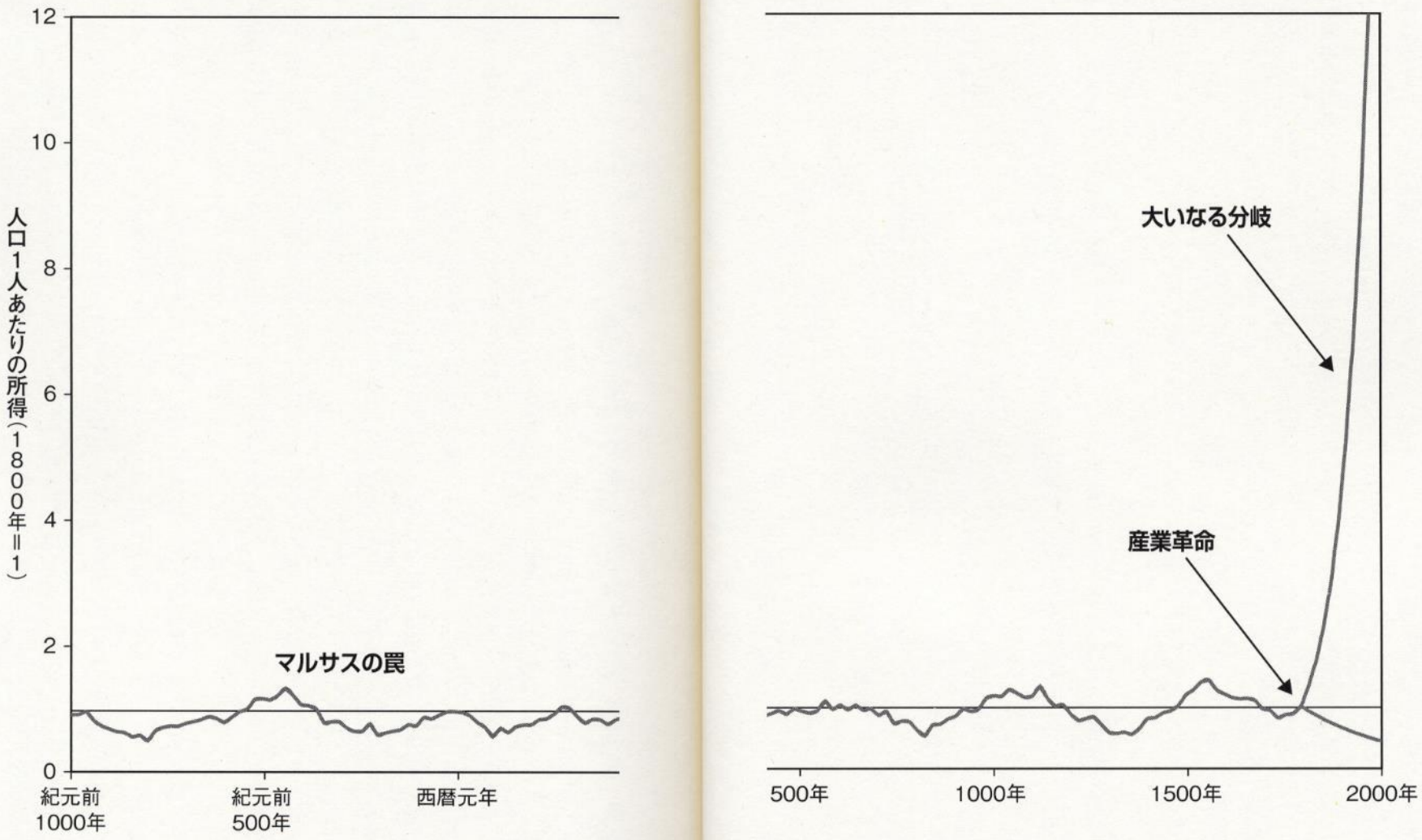
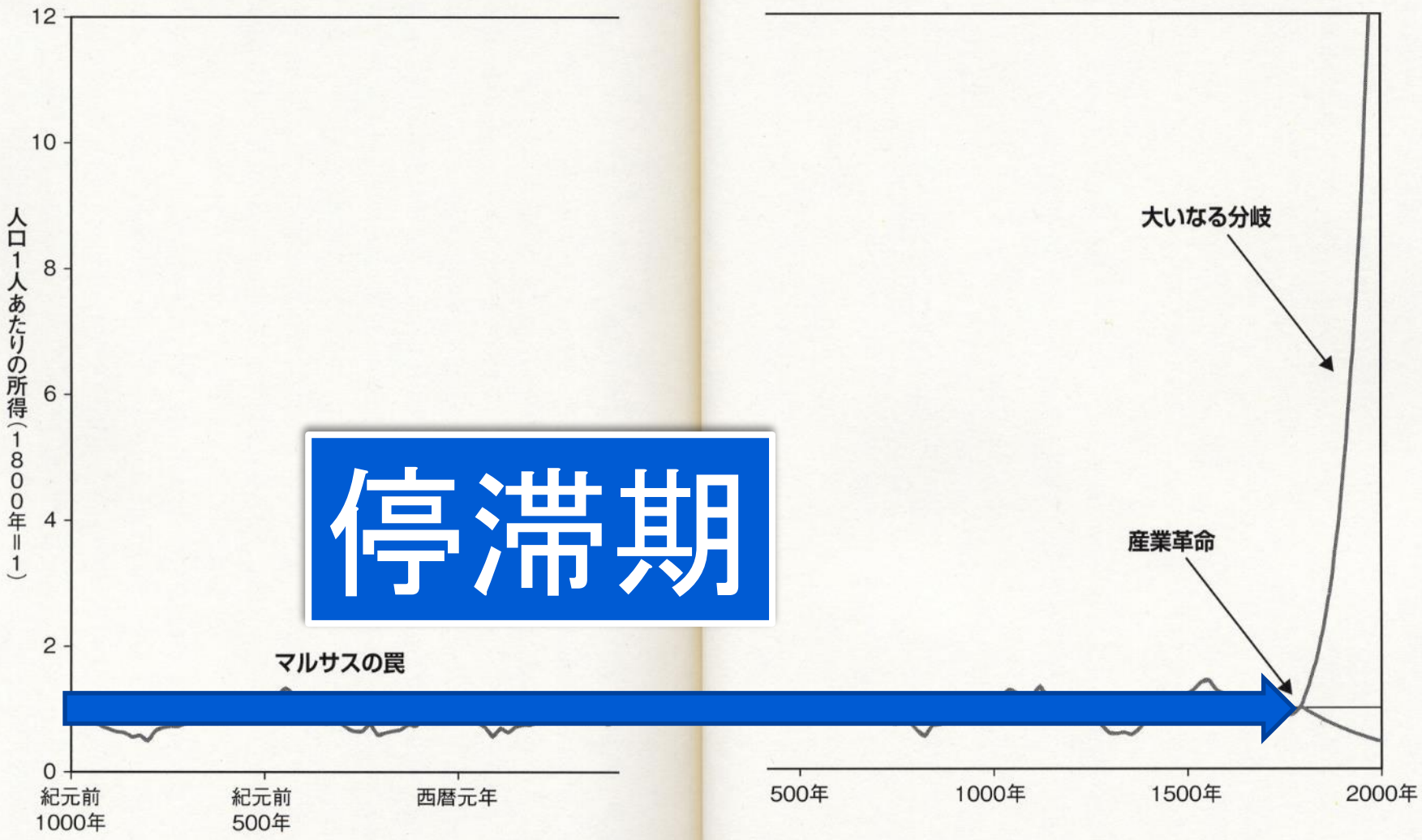


図1.1 世界経済史を1つの図で示したもの。1800年以降、多くの国で所得は急増したが、それ以外の国では減少した。



1800年の世界人口の大半は、遠い先祖らよりも貧しい暮らしをしていた。

平均余命　30～35歳　≒　狩猟採集生活

人々の身長（＝栄養状態の目安）　＜　狩猟採集生活

労働時間　あくせく　＞　狩猟採集生活　ゆったり

技術は少しずつ進歩してたはずなのに、なぜ？

平均余命　30～35

採集生活

人々の身長（＝栄養状態の

狩猟採集生活

労働時間　あくせく　＞　狩猟採集生活　ゆったり

そして　1800　以後

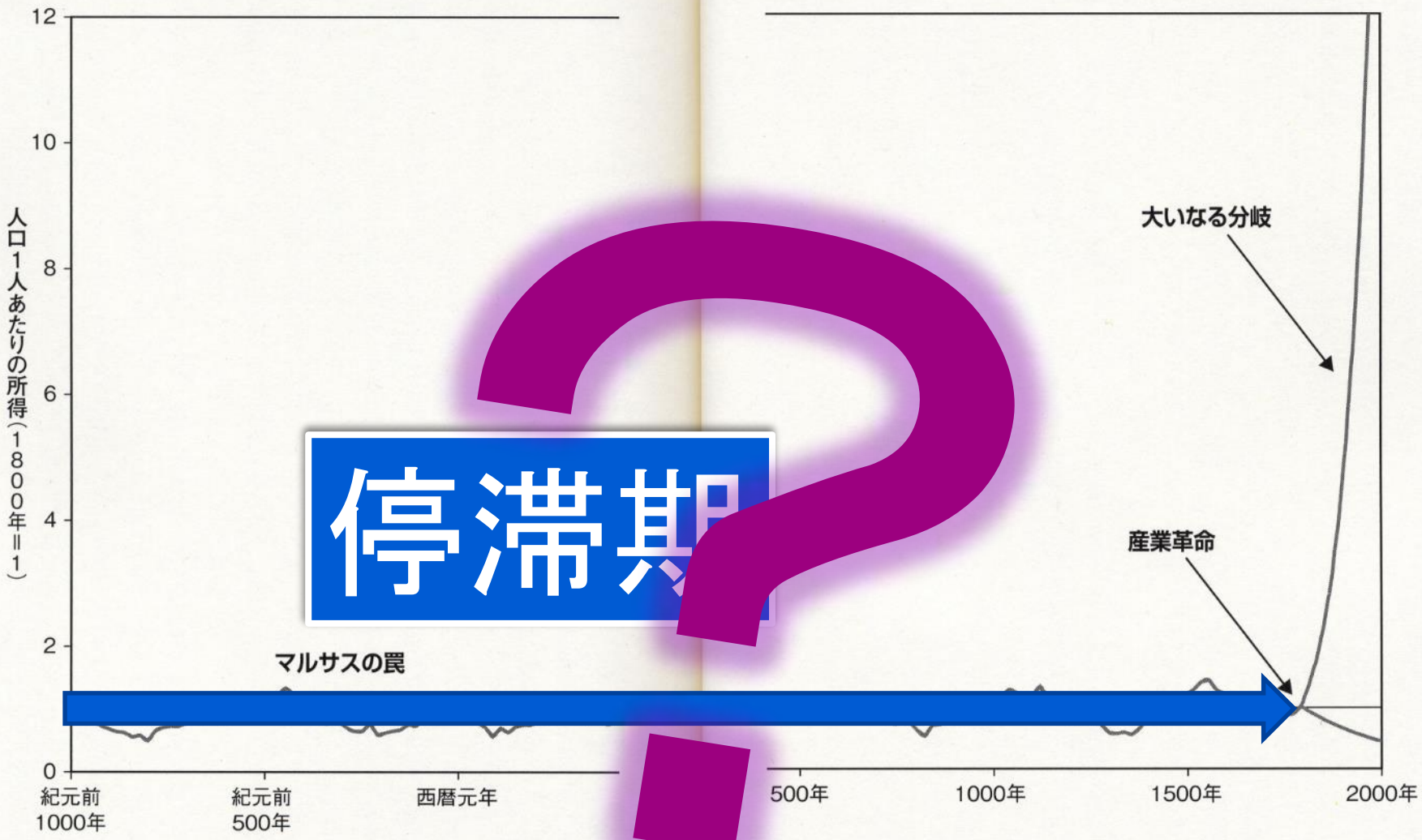
図1.1 世界経済史を1つの図で示したもの。1800年以降、多くの国で所得は急増したが、それ以外の国では減少した。

先進国は10-20倍の経済成長

後進国は産業革命前の水準さえ下回る

技術は世界スタンダードなはずなのに

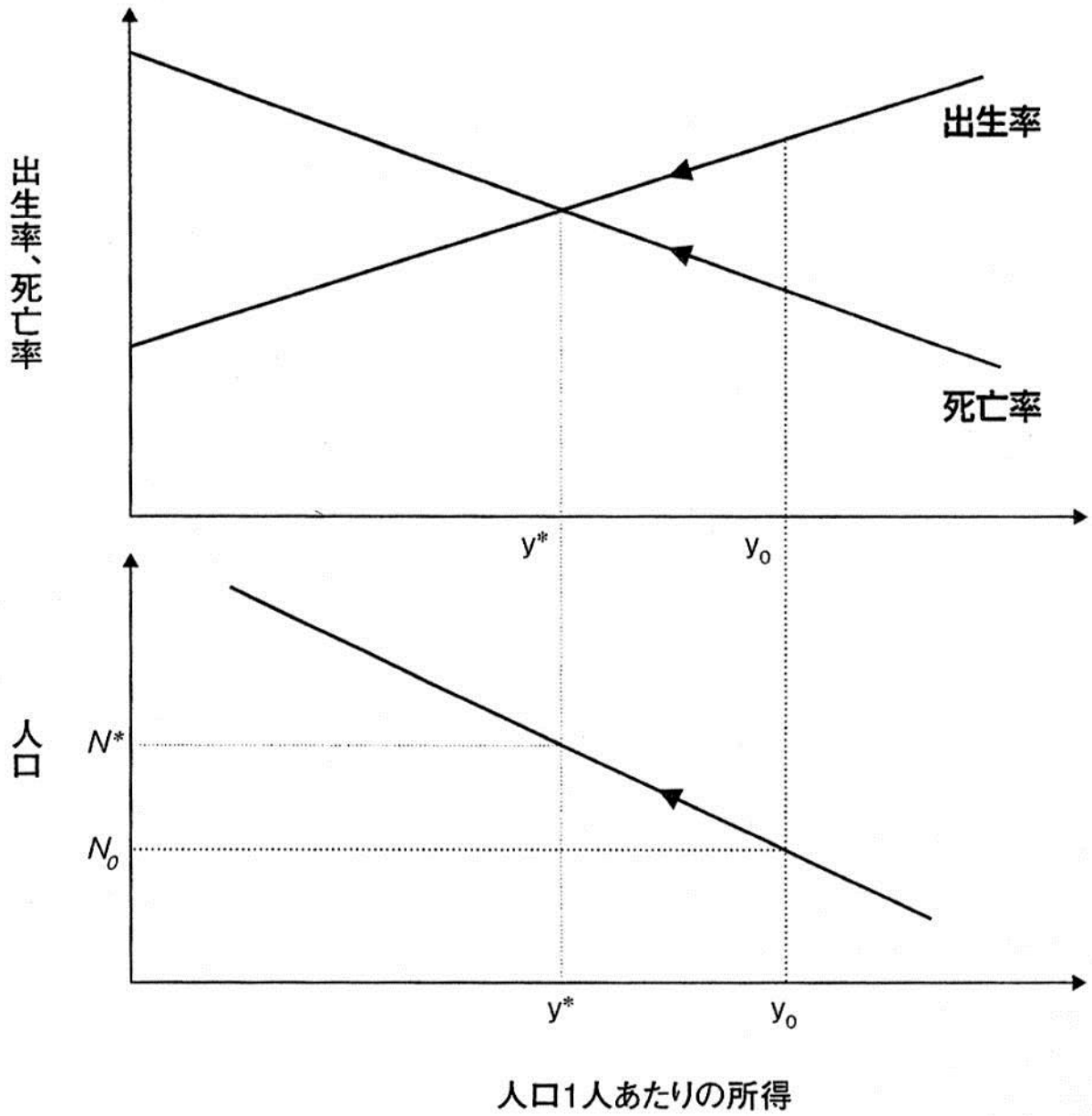
図1.1 世界経済史を1つの図で示したもの。1800年以降、多くの国で所得は急増したが、それ以外の国では減少した。



マルサスの罠

1

図2.1 マルサス的経済における長期的均衡



1

図2.1 マルサス的経済における長期的均衡

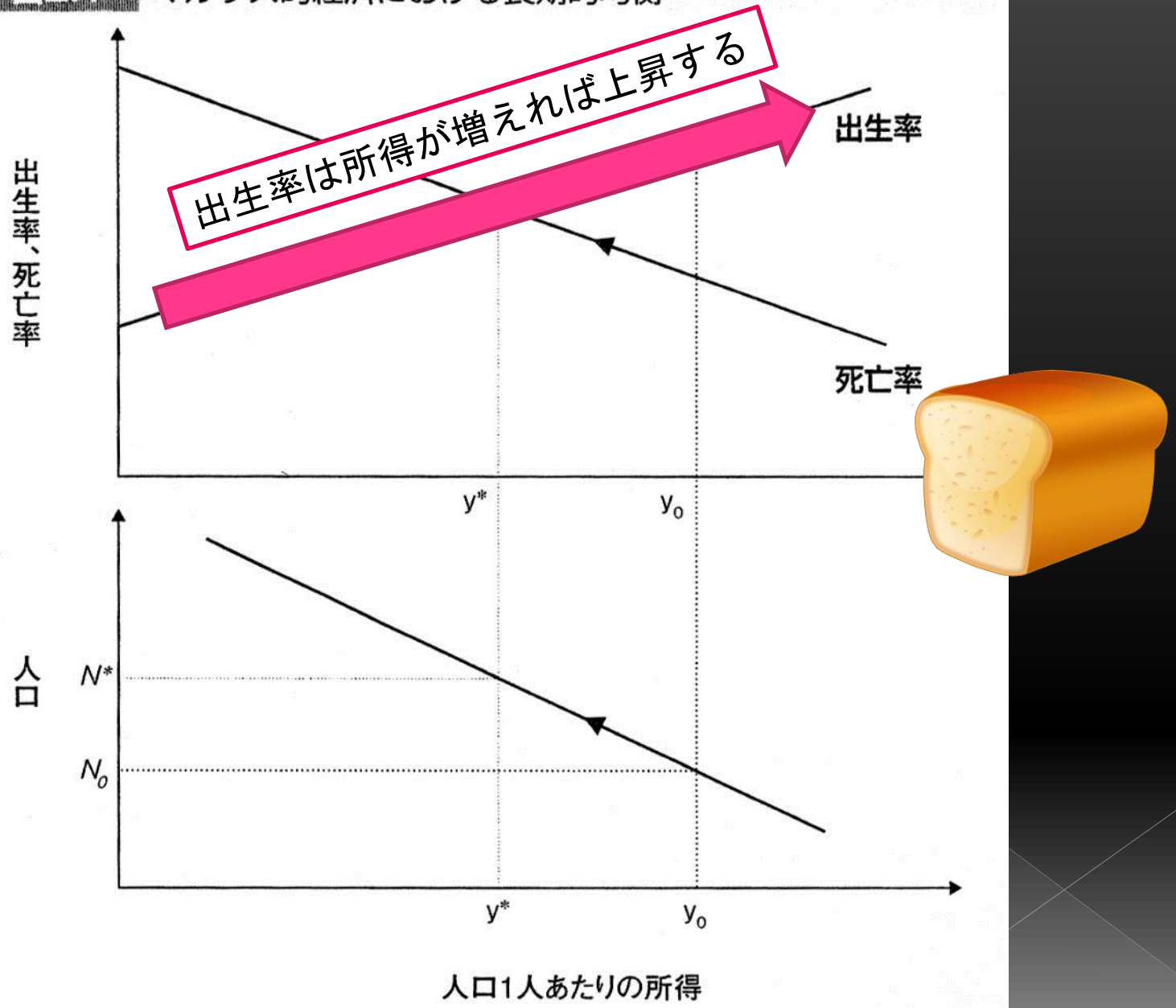


図2.1 マルサス的経済における長期的均衡

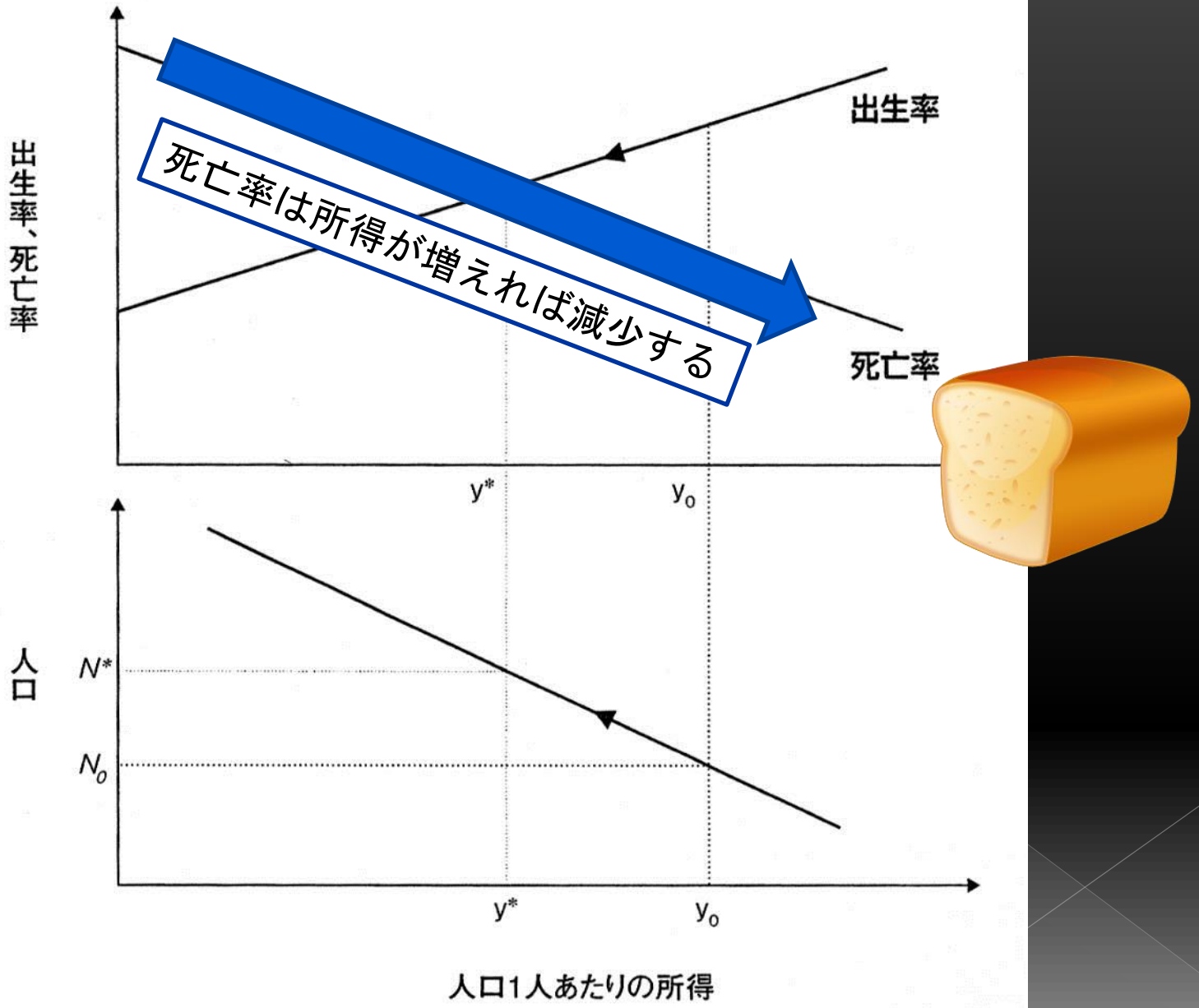


図2.1 マルサス的経済における長期的均衡

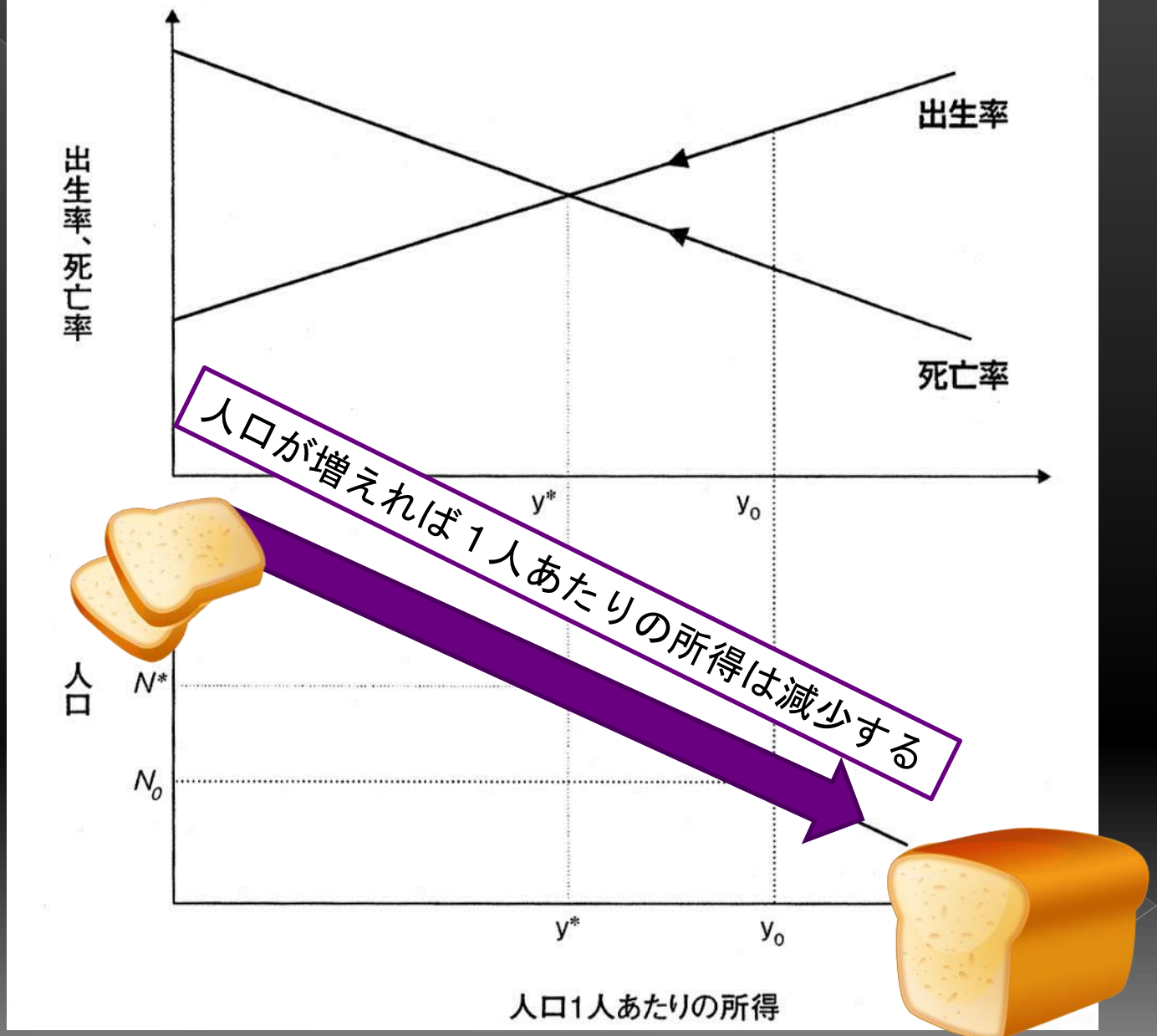
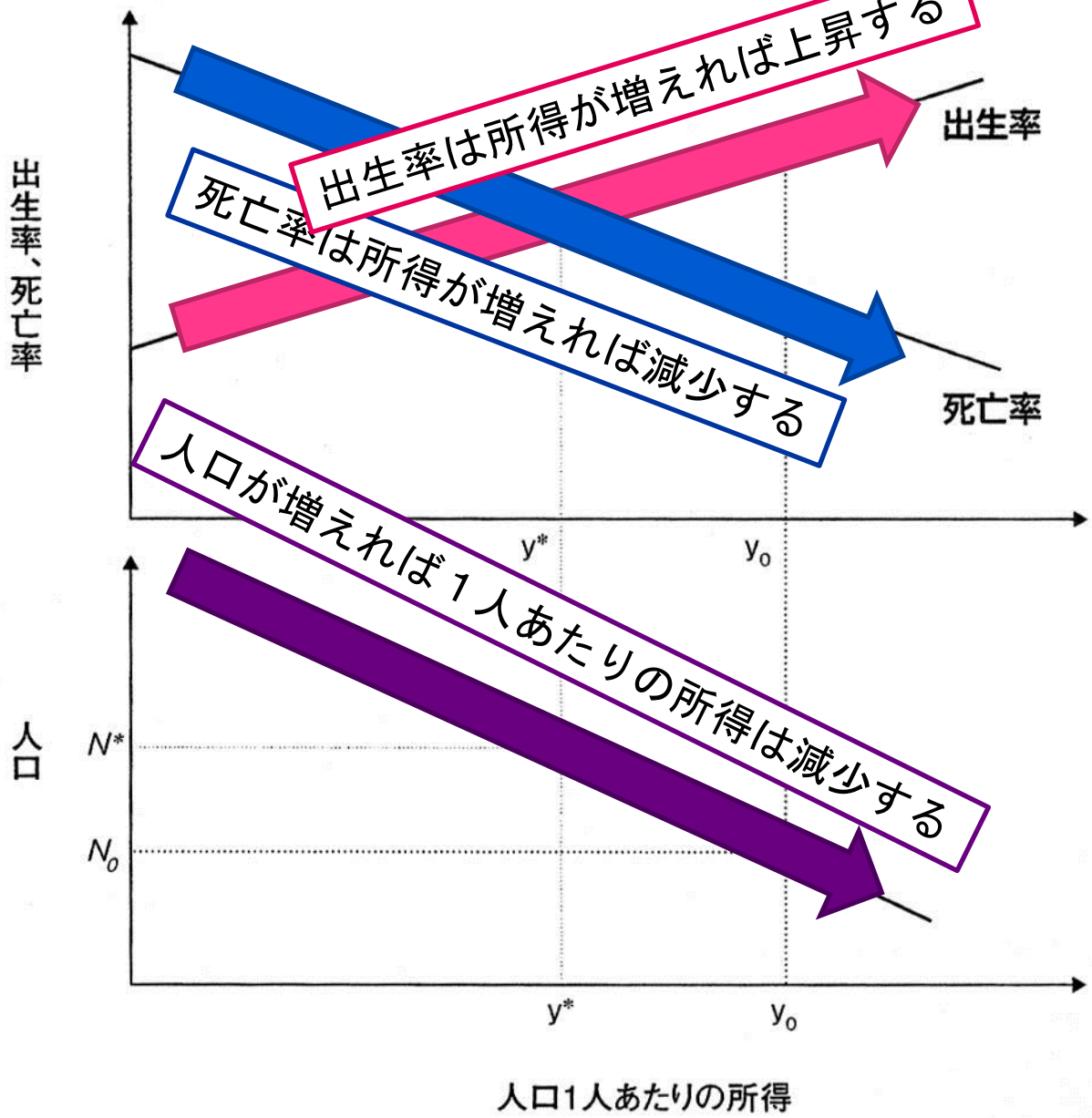


図2.1 マルサス的経済における長期的均衡



1

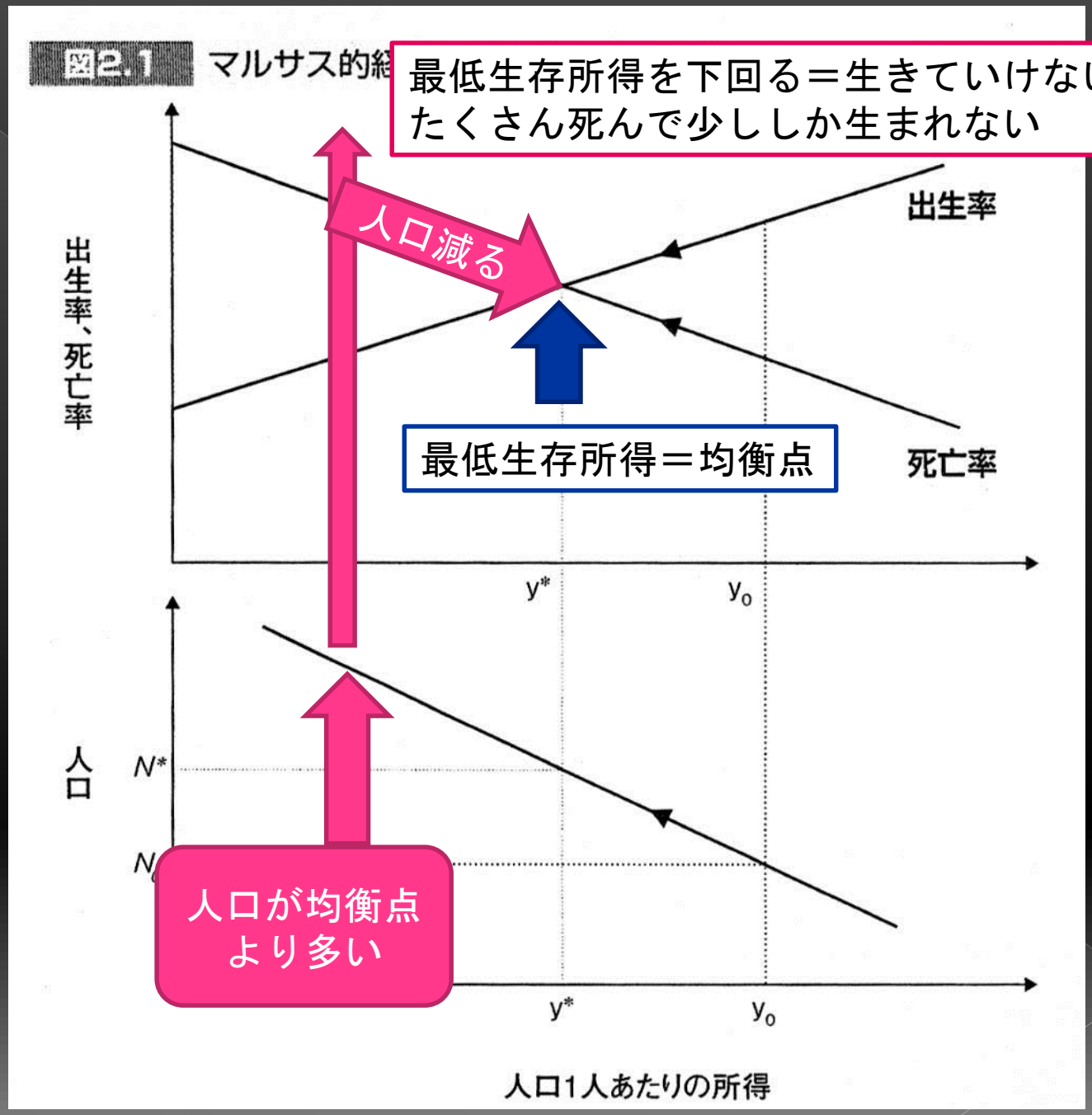


図2.1 マルサス的経
最低生存所得を下回る＝生きていけないので
たくさん死んで少ししか生まれない
人口減る
出生率
死亡率
出生率、死亡率
最低生存所得＝均衡点
y*
y0
人口
N*
N
人口が均衡点
より多い
y*
y0
人口1人あたりの所得

1

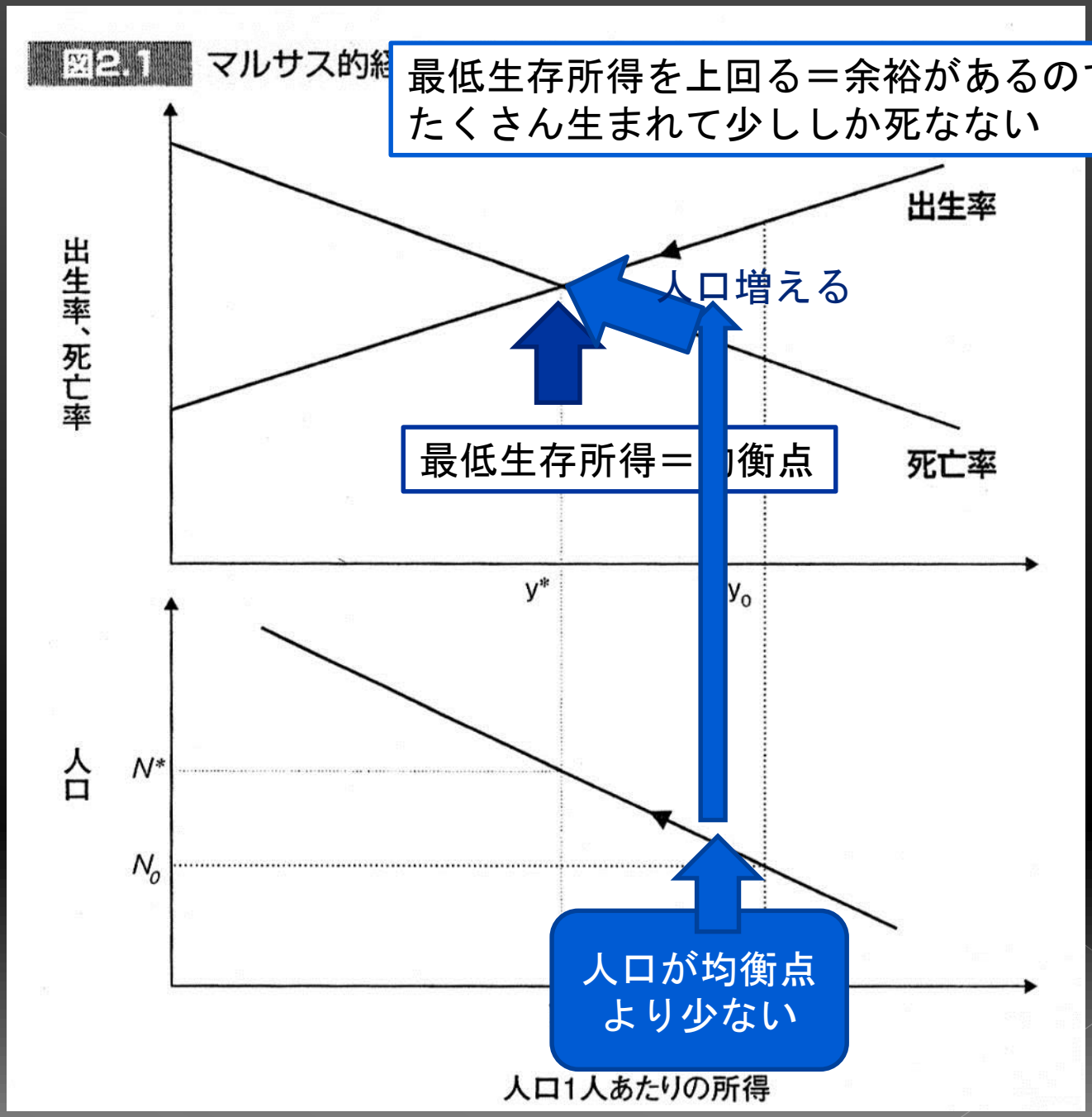


図2.1 マルサス的経
最低生存所得を上回る＝余裕があるので
たくさん生まれて少ししか死なない
出生率
人口増える
出生率、死亡率
最低生存所得＝均衡点
死亡率
y*
y0
人口
N*
N0
人口が均衡点
より少ない
人口1人あたりの所得

マルサスの罠

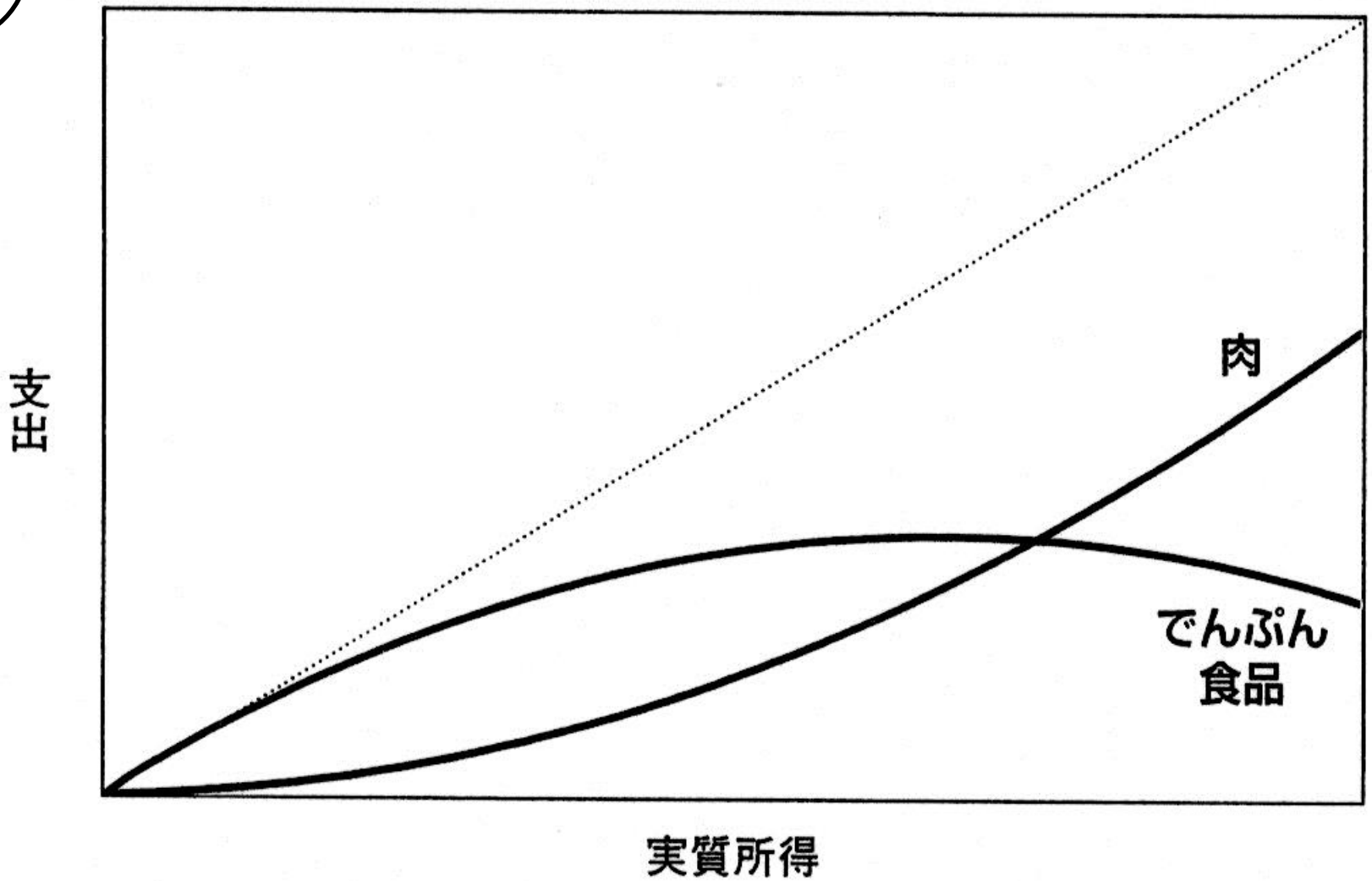
これが基本原理

マルサスの罠時代の

暮らしぶりを推定する

2

6.6 エンゲル曲線

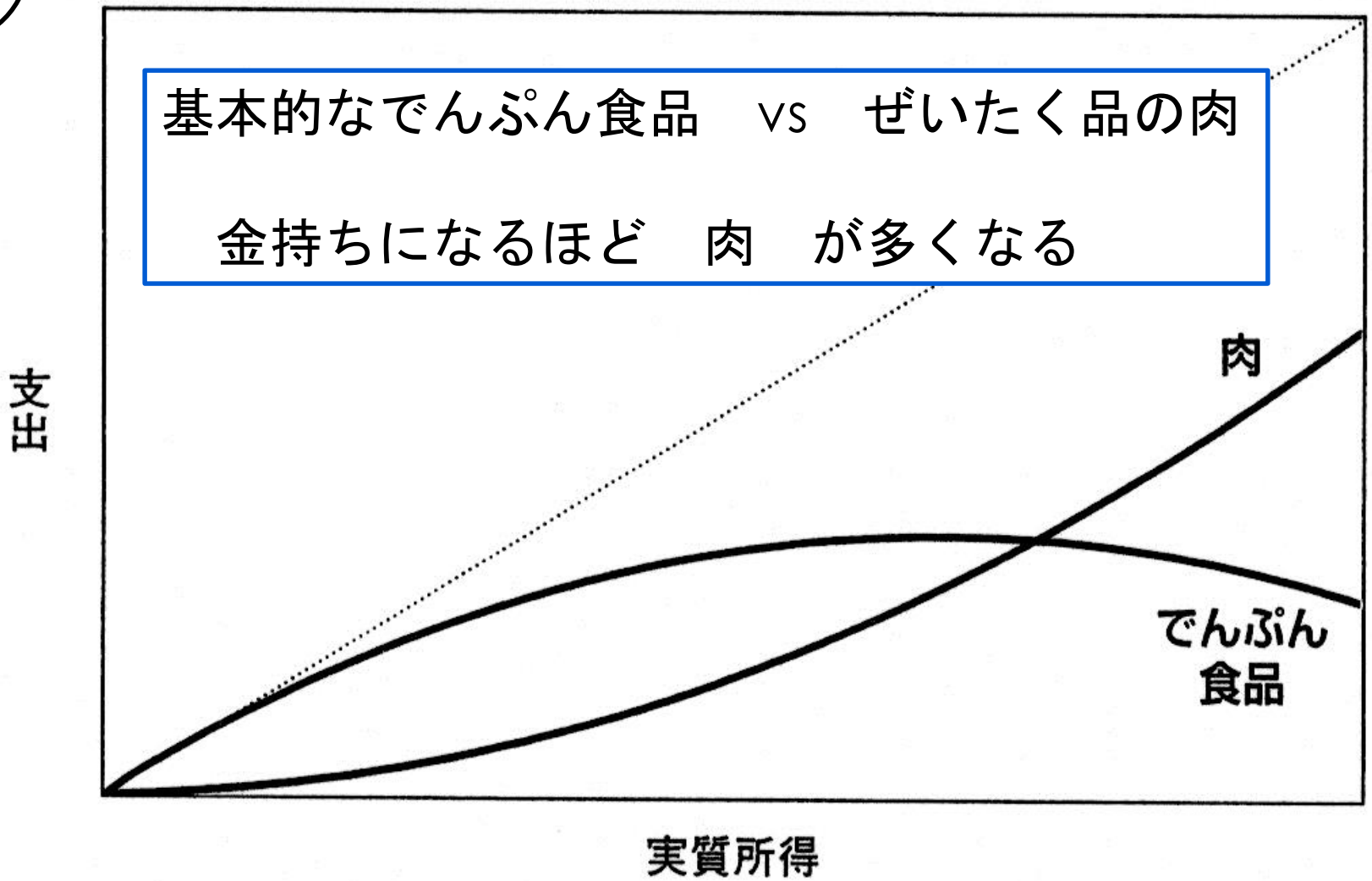


②

6.6 エンゲル曲線

基本的なでんぷん食品　vs　ぜいたく品の肉

金持ちになるほど　肉　が多くなる



肉をたくさん食べると・・・

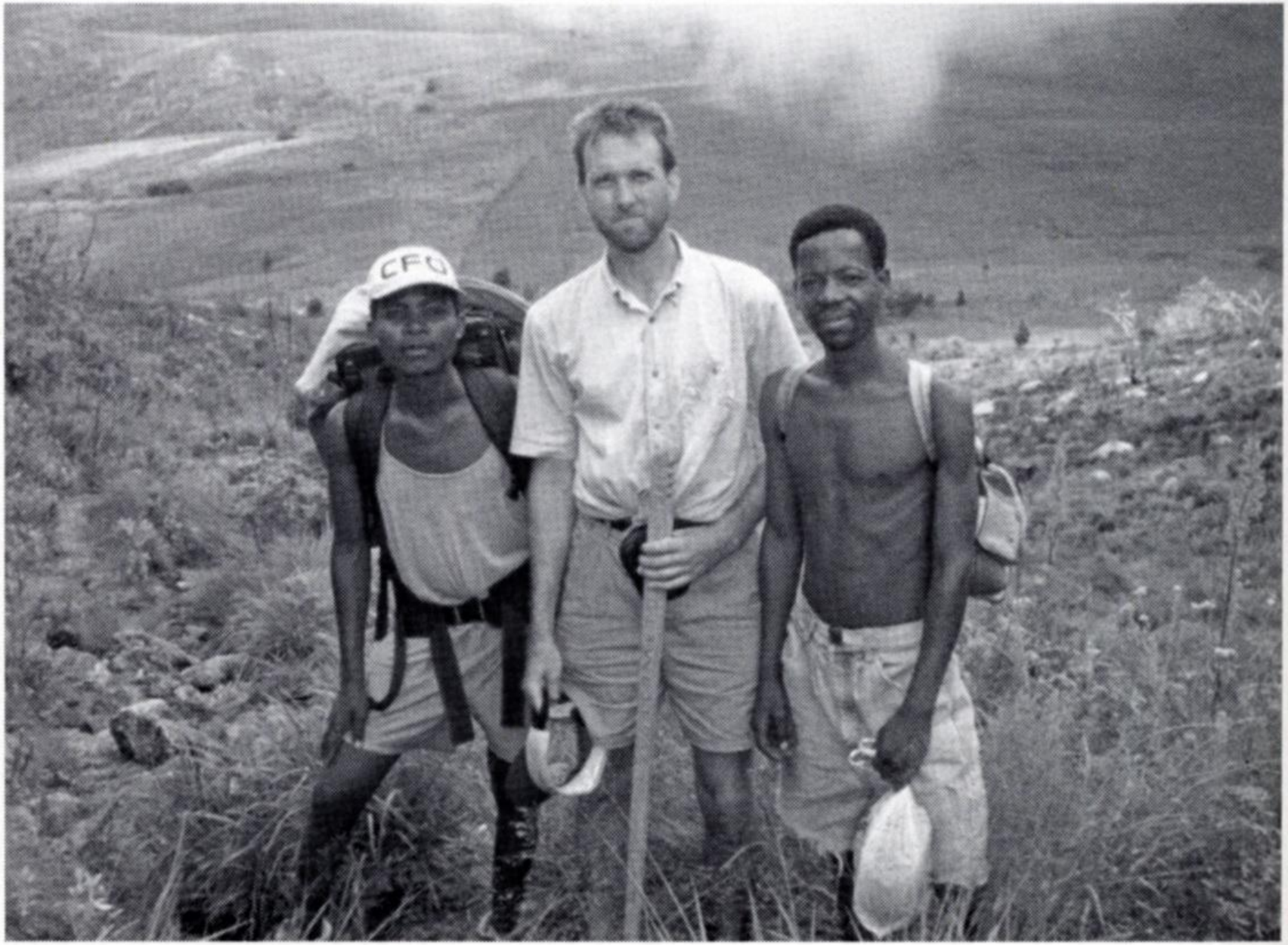


写真３・２　米国人旅行者とマラウィ人の運搬人夫（2001 年）

3

表3.8 産業化以前の社会における成人男性の推定平均身長

時期	地域	身分	年齢	身長（センチメートル）
1830年代	スウェーデン[a]	兵士	成人	172
1710-59年*	英国[b]	囚人	23-60	171
		年季奉公人	23-60	171
1830年代	英国[a]	兵士	成人	169
	イタリア北部[a]	兵士	25-40	167
	バイエルン王国[a]	兵士	成人	167
	フランス[a]	兵士	成人	167
	オランダ[a]	兵士	成人	167
1770-1815年	英国[c]	囚人	23-49	166
1830年代	ハンガリー[a]	兵士	成人	166
	オーストリア[a]	兵士	成人	164
1819-39年	西アフリカ（ヨルバ族）[d]	奴隷	25-40	167
	モザンビーク[d]	奴隷	25-40	165
	西アフリカ（イグボ族）[d]	奴隷	25-40	163
1800-29年*	中国南部[e]	囚人	23-59	164
1843年	インド南部[f]	年季奉公人	24-40	163
1842-44年	インド北部（ビハール）[f]	年季奉公人	24-40	161
1883-92年	日本[g]	兵士	20	159

出所：a：アハーン、2003年、表3。成人の身長に調整。b：コムロス、1993年、775。c：ブレナン他、1997年、220。d：エルティス、1982年、459-60。移送船から解放された奴隷。e：モーガン、2006年、表4a。f：ニコラス、ステッケル、1991年、946。g：ヤスバ、1986年、223。20歳時の身長を成人の身長に調整。

注：*は生まれた年を表す。

3

表3.8 産業化以前の社会における成人男性の推定平均身長

時期	地域	身分	年齢	身長（センチメートル）
1830年代	スウェーデン[a]	兵士	成人	17
1710-59年*	英国[b]	囚人	23-60	1
		年季奉公人	23-60	1
1830年代	英国[a]	兵士	成人	169
	イタリア北部[a]	兵士	25-40	167
	バイエルン王国[a]	兵士	成人	167
	フランス[a]	兵士	成人	167
	オランダ[a]	兵士	成人	167
1770-1815年	英国[c]	囚人	23-49	166
1830年代	ハンガリー[a]	兵士	成人	166
	オーストリア[a]	兵士	成人	164
1819-39年	西アフリカ（ヨルバ族）[d]	奴隷	25-40	167
	モザンビーク[d]	奴隷	25-40	165
	西アフリカ（イグボ族）[d]	奴隷	25-40	163
1800-29年*	中国南部[e]	囚人	23-59	164
1843年	インド南部[f]	年季奉公人	24-40	163
1842-44年	インド北部（ビハール）[f]	年季奉公人	24-40	161
1883-92年	日本[g]	兵士	20	159

出所：a：アハーン、2003年、表3。成人の身長に調整。b：コムロス、1993年、775。c：ブレナン他、1997年、220。d：エルティス、1982年、459-60。移送船から解放された奴隷。e：モーガン、2006年、表4a。f：ニコラス、ステッケル、1991年、946。g：ヤスバ、1986年、223。20歳時の身長を成人の身長に調整。

注：*は生まれた年を表す。

産業革命以前は
ヨーロッパ
≒アフリカ
＞アジア

ヨーロッパ
並み

低い！

もっと古いデータ

表3.10 人骨から推定した各時代の人々の身長

時期	地域	標本数	身長（センチメートル）
中石器時代[a]	ヨーロッパ	82	168
新石器時代[a,b]	ヨーロッパ	190	167
	デンマーク	103	173
1600-1800年[c]	オランダ	143	167
1700-1800年[c]	ノルウェー	1,956	165
1700-1850年[c]	ロンドン	211	170
先王朝時代[d]	エジプト	60	165
王朝時代[d]	エジプト	126	166
紀元前2500年[e]	トルコ	72	166
紀元前1700年[f]	レルネー（ギリシャ）	42	166
紀元前2000-1000年[g]	ハラッパ（インド）	—	169
紀元前300-西暦250年[h]	日本（弥生時代）	151	161
1200-1600年[h]	日本（中世）	20	159
1603-1867年[h]	日本（江戸時代）	36	158
1450年[i]	タウマコ（マリアナ諸島）	70	174
1650年[i]	イースター島	14	173
1650年[i]	ニュージーランド	124	174
1400-1800年[i]	ハワイ	—	173

出所：a：ミークルジョン、ズベリビル、1991年、133。b：ベンニケ、1985年、51-52。c：ステッケル、2001年。d：マサリ、1972年。e：メリンク、エンゼル、1970年。f：エンゼル、1971年。g：ホートン、1996年、43-45。h：ボワ、ローゼンブルース、2004年、表6。i：ドゥッタ、1984年。

低い！

マルサスの罠にハマらないよう

子どもの数をコントロール

してたらしい

4

1.1 1790年以前のヨーロッパにおける既婚女性の年間出生率

国・グループ	年齢別出生率					子供の総出生数
	20–24	25–29	30–34	35–39	40–44	
ヒュッテル派	0.55	0.50	0.45	0.41	0.22	10.6
ベルギー	0.48	0.45	0.38	0.32	0.20	9.1
フランス	0.48	0.45	0.40	0.32	0.16	9.1
ドイツ	0.45	0.43	0.37	0.30	0.16	8.6
スイス	0.45	0.38	0.34	0.22	0.16	7.8
スカンジナビア諸国	0.43	0.39	0.32	0.26	0.14	7.7
英国	0.43	0.39	0.32	0.24	0.15	7.6

出所：フリン、1981 年、86。

4

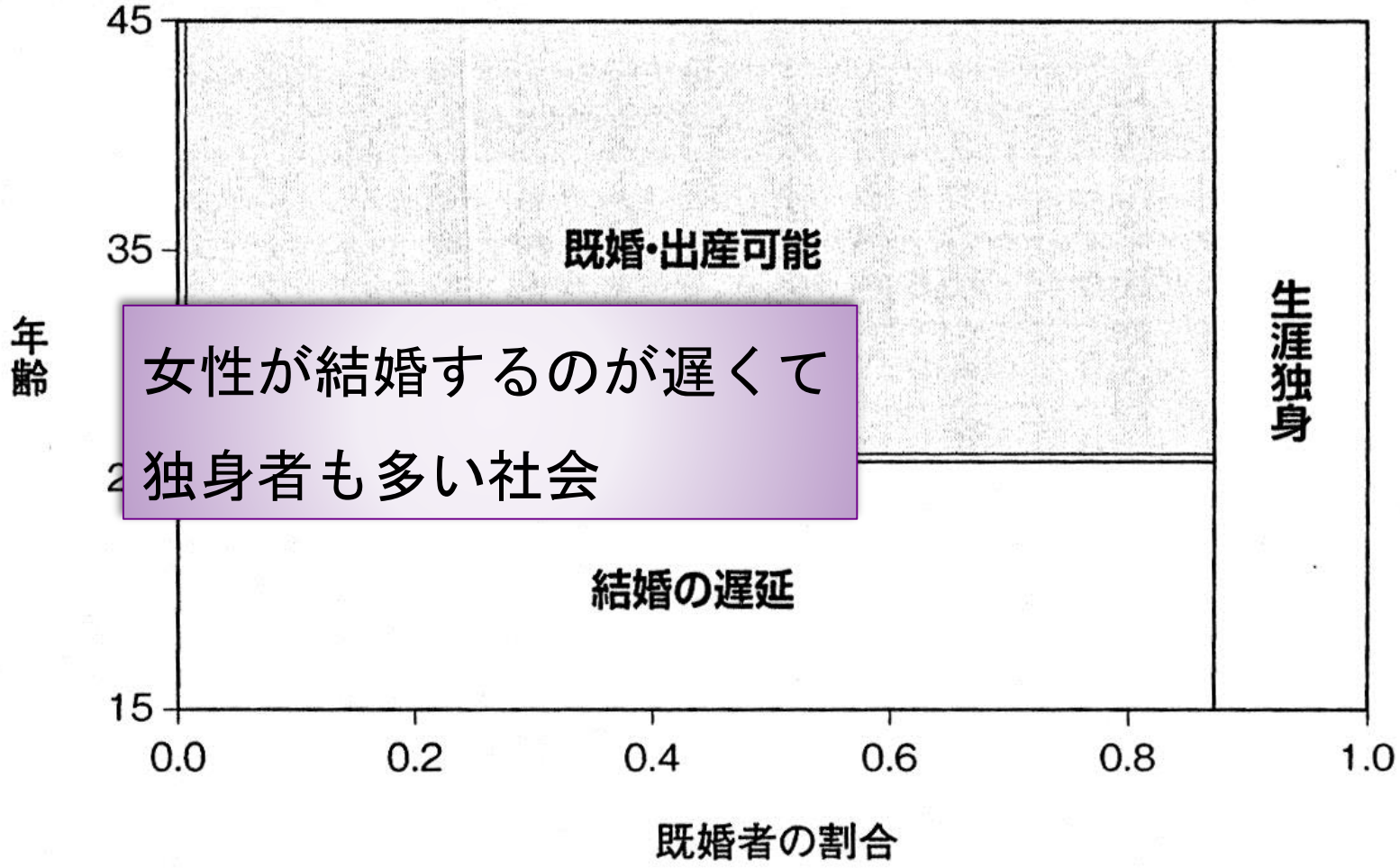
1.1 1790年以前のヨーロッパにおける既婚女性の年間出生率

国・グループ	年齢別出生率					子供の総出生数
	20–24	25–29	30–34	35–39	40–44	
ヒュッテル派	0.55	0.50	0.45	0.41	0.22	10.6
ベルギー	0.48	0.45	0.38	0.32	0.20	9.1
フランス	0.48	0.45	0.40	0.32	0.16	9.1
ドイツ	0.45	0.43	0.37	0.30	0.16	8.6
スイス	0.45	0.38	0.34	0.22	0.16	7.8
スカンジナビア諸国	0.43	0.39	0.32	0.26	0.14	7.7
英国	0.43	0.39	0.32	0.24	0.15	7.6

宗教的に産児制限していない社会なのに
なぜか低い出生数

出所：フリン、1981 年、86。

図4.1 ヨーロッパの結婚パターンと出生率



女性が結婚するのが遅くて
独身者も多い社会

4

4.6 ヨーロッパ以外の国々での年齢別有配偶出生率

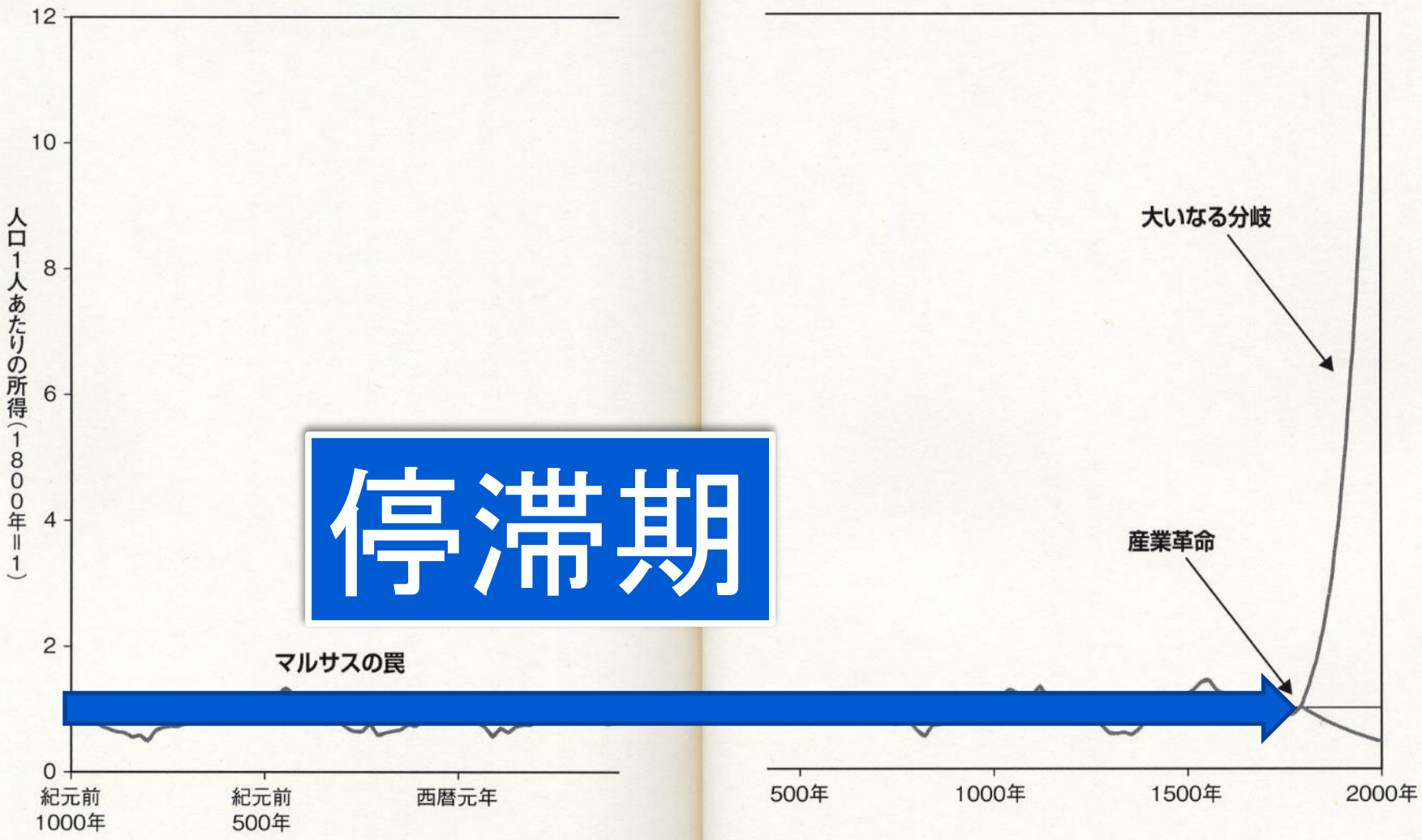
国・グループ	年齢別出生率					全体の出生率
	20–24	25–29	30–34	35–39	40–44	
ヒュッテル派[a]	0.55	0.50	0.45	0.41	0.22	10.6
ヨーロッパ北西部[a]	0.45	0.42	0.35	0.28	0.16	8.3
中国[b]	0.24	0.25	0.22	0.18	0.10	5.0
日本[b]	0.29	0.25	0.22	0.15	0.12	5.2
ローマ帝国支配下のエジプト[c]	0.38	0.35	—	—	—	7.4

出所：a：表 4.1。b：リー、フェン、1999 年、87。c：バグナル、フライアー、1994 年、143-46。

中国・日本は
もっと低い！

貧しさゆえ「間引き」が常態化

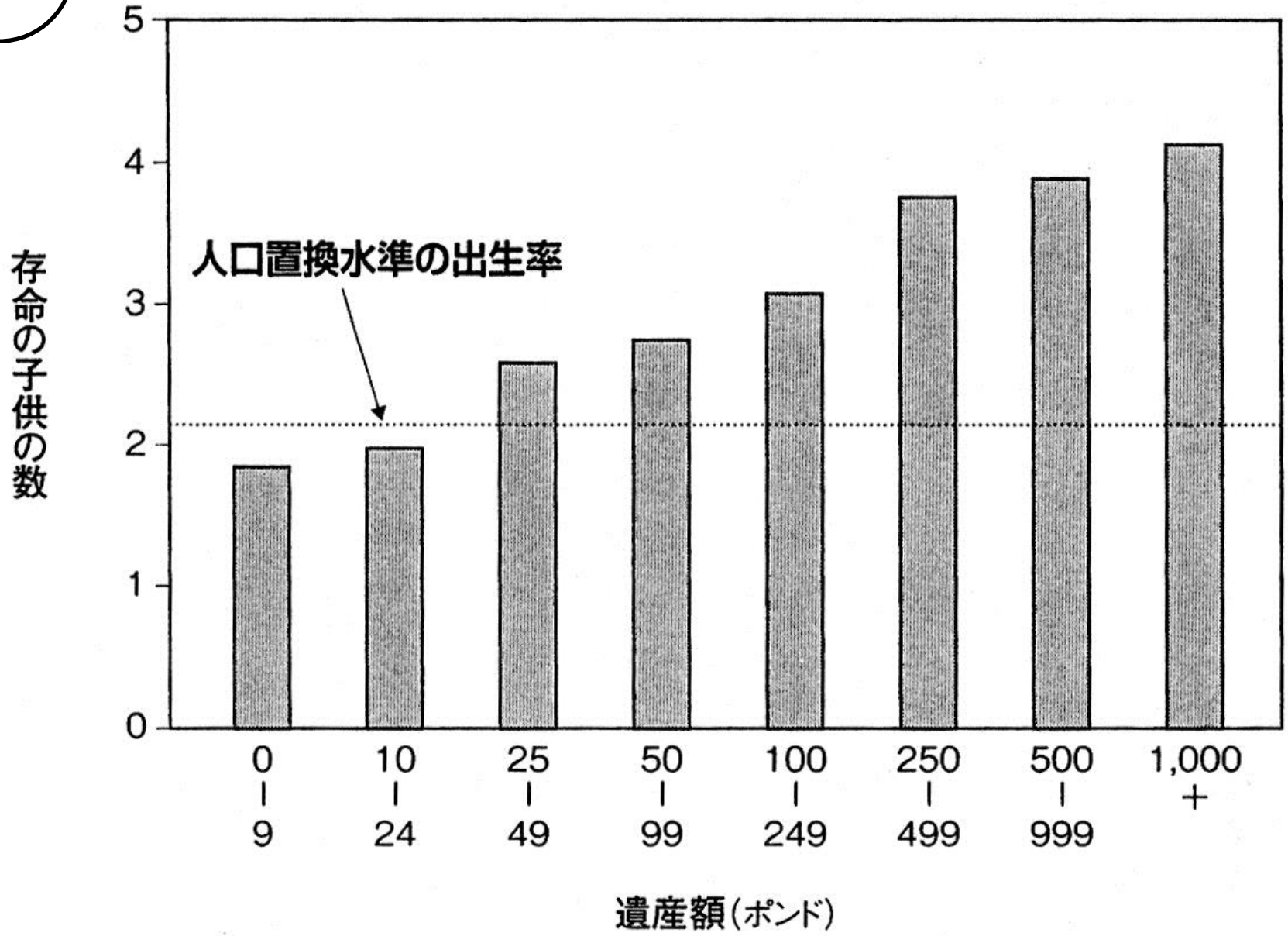
図1.1 世界経済史を1つの図で示したもの。1800年以降、多くの国で所得は急増したが、それ以外の国では減少した。



そんな停滞期にも内なる変動はありました。

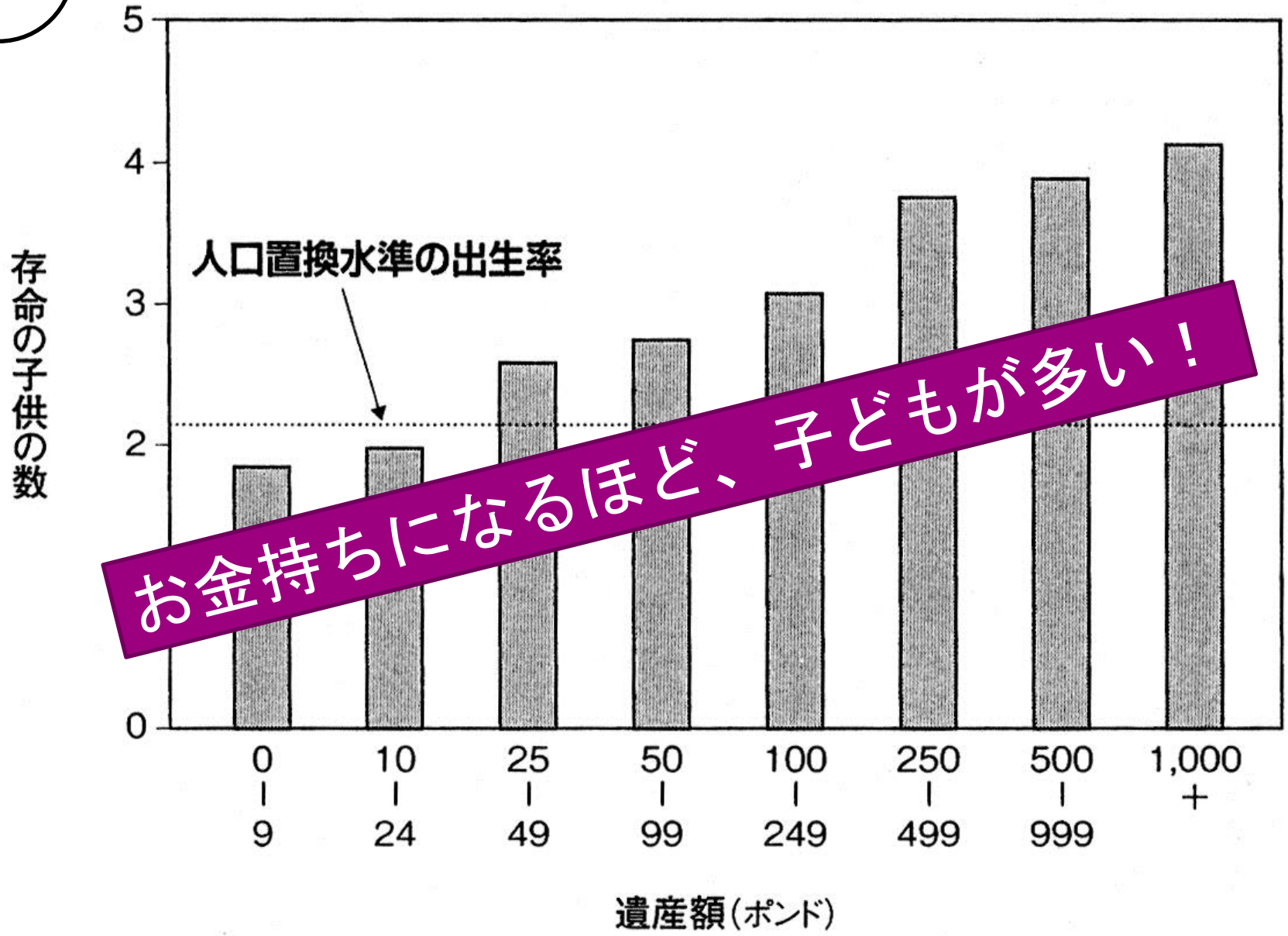
5

6.2 遺産額別に示した、遺言作成者の存命の子供の数



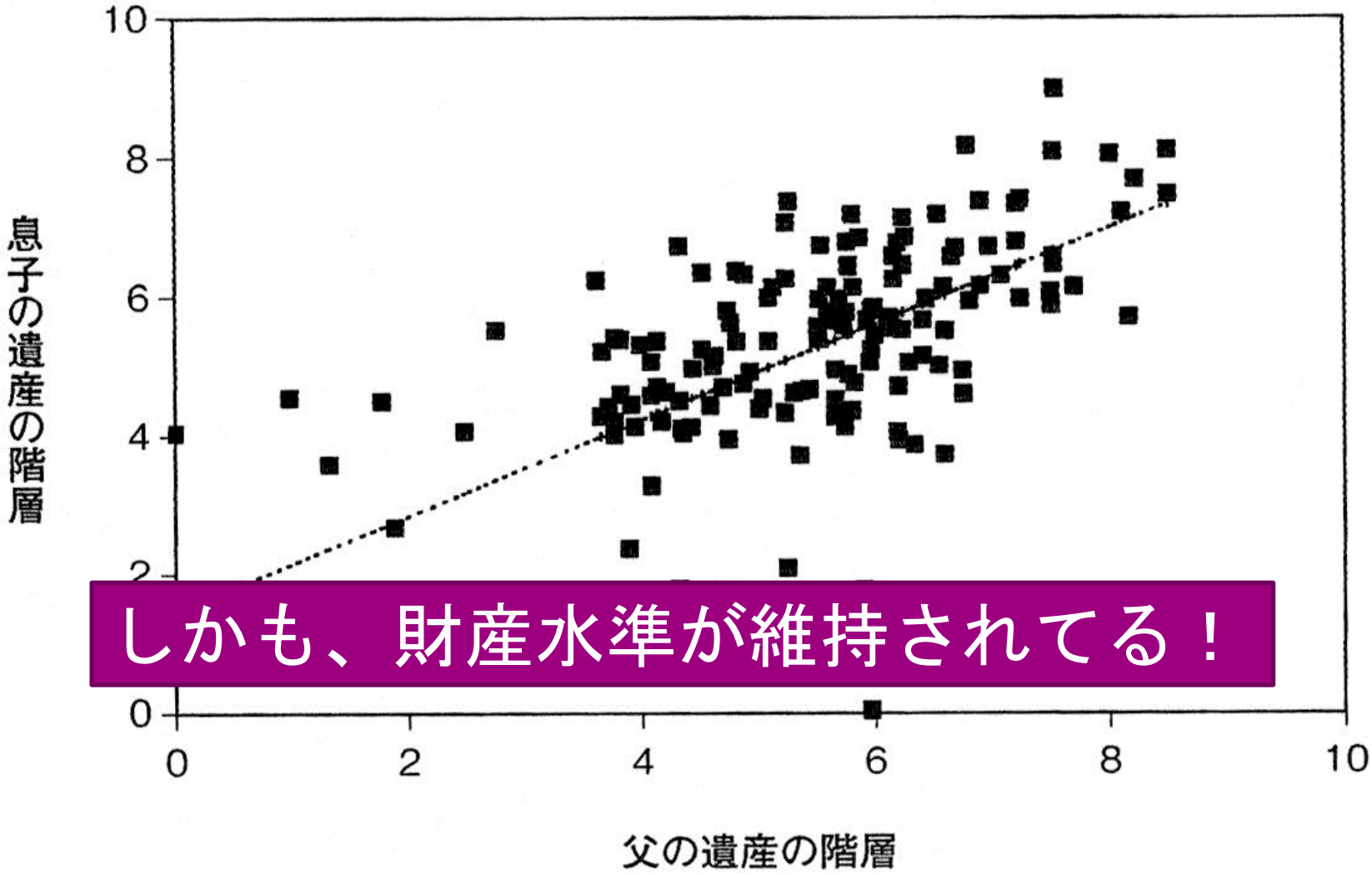
5

6.2 遺産額別に示した、遺言作成者の存命の子供の数



お金持ちになるほど、子どもが多い！

図6.5 父と息子の遺産額の関係



しかも、財産水準が維持されてる！

遺産階層の単位は自然対数 ln（1 ＋遺産額）

近代人は

ガメツク他人を押しのけた者たちの

子孫なのだ。

さらに恐ろしい事実

6

表6.4 ヤノマモ族の男性の生殖成功率（1987年）

年齢	殺人経験者の数	殺人経験者の子供の平均数	殺人非経験者の数	殺人非経験者の子供の平均数
20-24	5	1.00	78	0.18
25-30	14	1.57	58	0.86
31-40	43	2.83	61	2.02
41+	75	6.99	46	4.19

出所：シャニヨン、1988年。

ヤノマミ族・・・アマゾン奥地の狩猟民族

6

表6.4 ヤノマモ族の男性の生殖成功率（1987年）

年齢	殺人経験者の数	殺人経験者の子供の平均数	殺人非経験者の数	殺人非経験者の子供の平均数
20-24	5	1.00	78	0.18
25-30	14	1.57	58	0.86
31-40	43	2.83	61	2.02
41+	75	6.99	46	4.19

出所：シャニヨン、1988年。

狩猟民族では**殺人経験者**が、多くの子孫を残す！

6

図6.5 1620-38年のサフォーク州における世代間の人口変動

資産額	第1世代の男性の数	第1世代に占める割合(%)	成人した男の子供の数	第2世代に占める割合(%)
0(遺言書なし)	2,204	61.0	(2,125)	49.8
0-10	140	3.9	135	3.2
500-999	116	3.2	220	5.2
1,000以上	168	4.7	338	7.9
合計	3,613	100	4,266	100

出所：クラーク、ハミルトン、2006年。

注：4列めのかっこ内の数字は、大執事所管裁判所で遺言書を作成した人々のうち、資産額が最多・最少の各階層における生殖成功率から推算したもの。

6

図6.5 1620-38年のサフォーク州における世代間の人口変動

資産額	第１世代の男性の数	第１世代に占める割合（%）	成人した男の子供の数	第２世代に占める割合（%）
0（遺言書なし）	2,204	61.0	(2,125)	49.8
0-10	140	3.9	135	3.2
500-999	116	3.2	220	5.2
1,000 以上	168	4.7	338	7.9
合計	3,613	100	4,266	100

出所：クラーク、ハミルトン、2006 年。

注：４列めのかっこ内の数字は、大執事所管裁判所で遺言書を作成した人々のうち、資産額が最多・最少の各階層における生殖成功率から推算したもの。

農業社会では**金持ち**が、多くの子孫を残す！

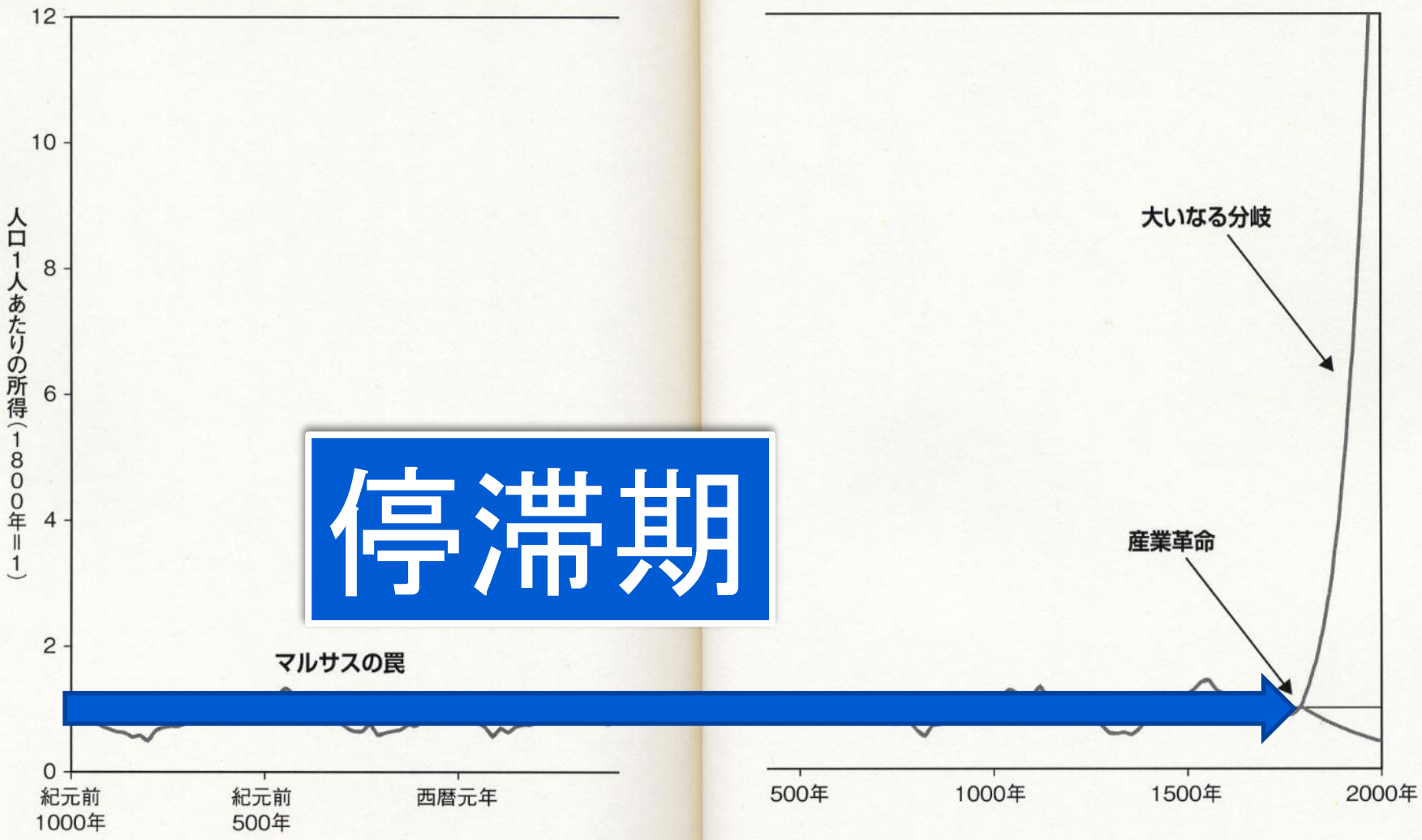
持てる者は与えられて
いよいよ豊かになり、
持たざる者は持ったものまで
取り上げられるであろう

マタイによる福音書

果て
の国
マタイ効果

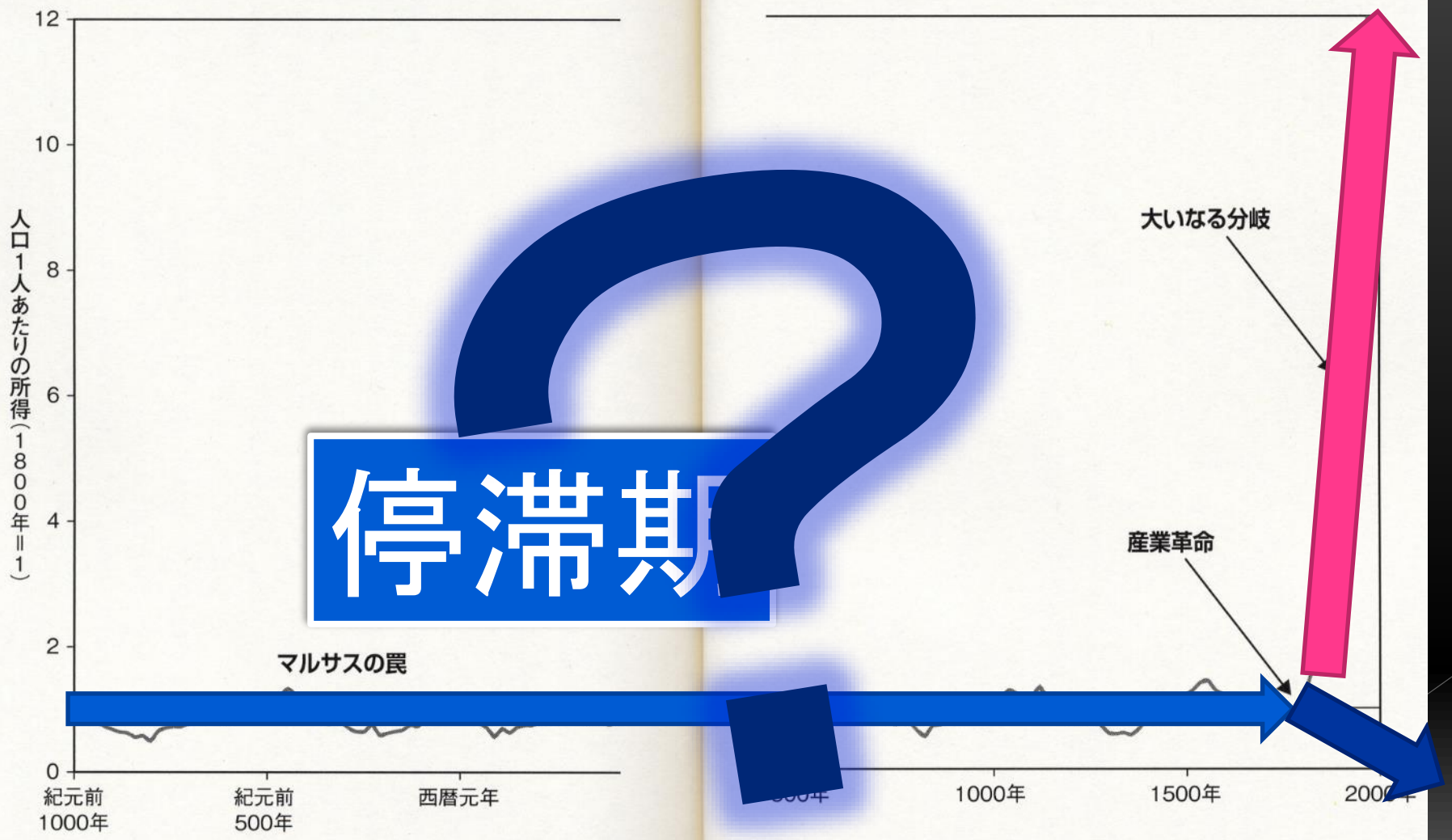
静的なマルサスの世界にも
ひそかな**ダイナミズム**は
はぐくまれていたのです。

図1.1 世界経済史を1つの図で示したもの。1800年以降、多くの国で所得は急増したが、それ以外の国では減少した。



そして **産業革命**

図1.1 世界経済史を1つの図で示したもの。1800年以降、多くの国で所得は急増したが、それ以外の国では減少した。



起きたこと　その１

7

4.4 英国の富裕層と貧困層の平均余命

時期、グループ	身長（男性、cm）	平均余命	存命の子供の数	識字率（%）
産業化以前の時代				
富裕層	174.0	39	3.85	85
貧困層	168.5	33	1.93	30
差	3%	18%	99%	183%
現代				
富裕層	178.2	80.8	1.33	100
貧困層	176.0	74.3	1.64	88
差	1%	9%	–19%	14%

7

4.4 英国の富裕層と貧困層の平均余命

時期、グループ	身長（男性、cm）	平均余命	存命の子供の数	識字率（%）
産業化以前の時代				
富裕層	174.0	39	3.85	85
貧困層	168.5	33	1.93	30
差	3%	18%	99%	183%
現代				
富裕層	178.2	80.8	1.33	100
貧困層	176.0	74.3	1.64	88
差	1%	9%	−19%	14%

貧富の差がなくなった♪

起きたこと　その２

8

表15.9 1800-2000年の世界における人口と所得の配分（%）

地域	測定対象	1800	1870	1913	2000
西ヨーロッパ	人口	11	15	14	6
	所得	24	37	31	20
北米、オセアニア	人口	1	4	6	6
	所得	3	10	20	25
南・東アジア	人口	64	56	56	53
	所得	47	31	24	32
ラテンアメリカ	人口	2	3	4	8
	所得	4	4	4	8
アフリカ	人口	7	7	5	13
	所得	9	7	4	4

出所：2000年については、ヘストン他、2006年。1913年については、プラドス・デ・ラ・エスコスラ、2000年。マディソン、2001年。1870年の所得・人口、および1800年の人口については、マディソン、2001年。1800年における西ヨーロッパの英国比の所得水準は、ファン・ザンデン、1999年、およびアレン、2001年から推定。1800年の他の国々の所得は、1870年と同等とした。

注：数値はパーセント。西ヨーロッパには、オーストリア、ドイツ、イタリア、スウェーデンをはじめ、ヨーロッパ西部のすべての国々が含まれる。

8

表15.9 1800-2000年の世界における人口と所得の配分（%）

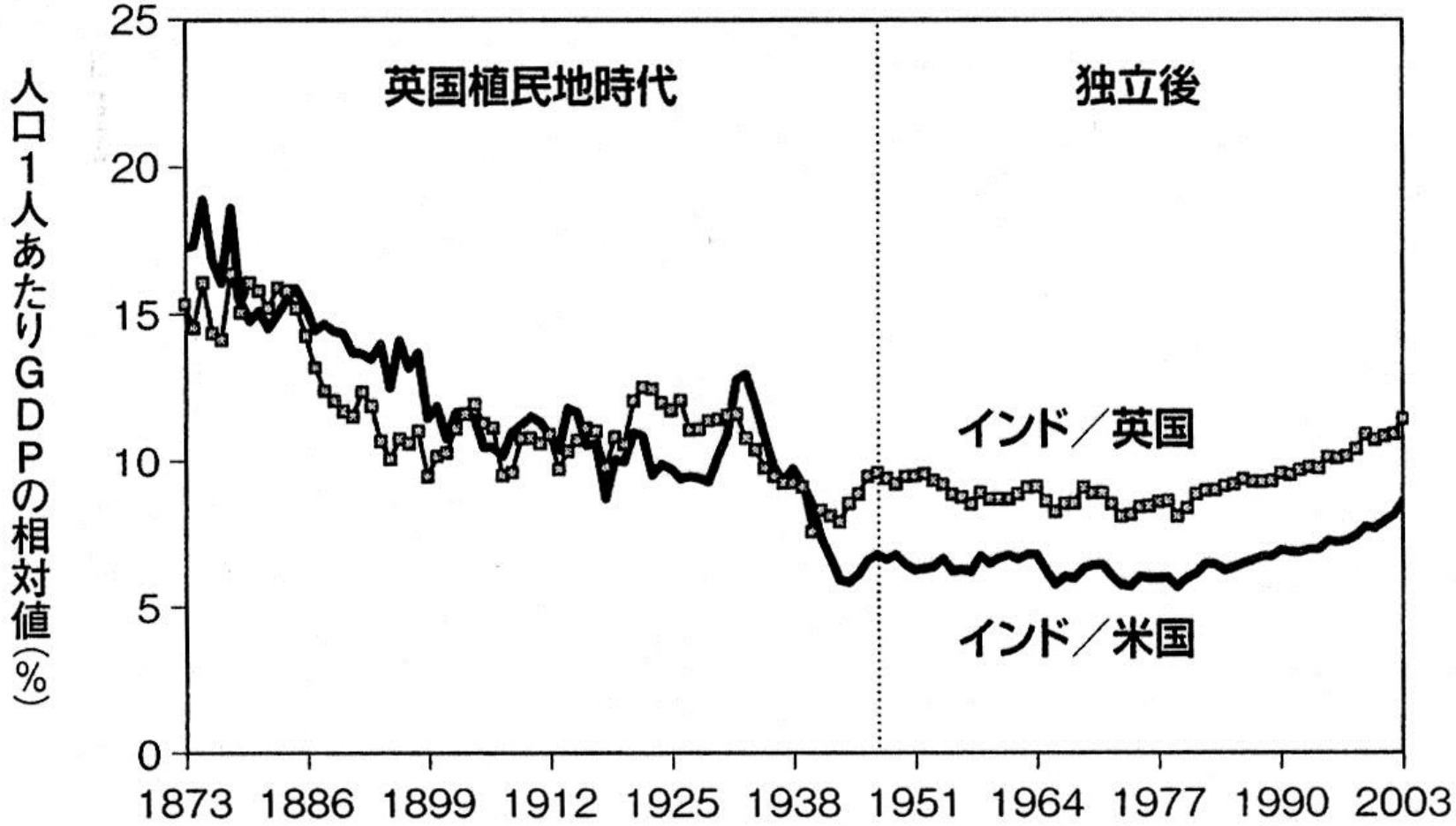
地域	測定対象	1800	1870	1913	2000
西ヨーロッパ	人口	11	15	[illegible]	6
	所得	24	[illegible]	31	20
北米、オセアニア	人口	1	4	[illegible]	6
	所得	3	[illegible]	20	25
南・東アジア	人口	64	[illegible]	56	53
	所得	47	31	[illegible]	32
ラテンアメリカ	人口	2	3	4	8
	所得	4	4	4	8
アフリカ	人口	7	[illegible]	5	13
	所得	9	7	4	4

出所：2000年については、ヘストン他、2006年。1913年について[illegible]プラドス・デ・ラ・エス[illegible]800年の人口に[illegible]所得水準は、ファ[illegible]国々の所得は、1870[illegible]

世界の格差は広がった！

注：数値はパーセント。西ヨーロッパには、オーストリア、ドイツ、イタリア、スウェーデンをはじめ、ヨーロッパ西部のすべての国々が含まれる。

図15.3 英国・米国と比較した、1873-2003年のインドにおける人口1人あたりGDPの相対値



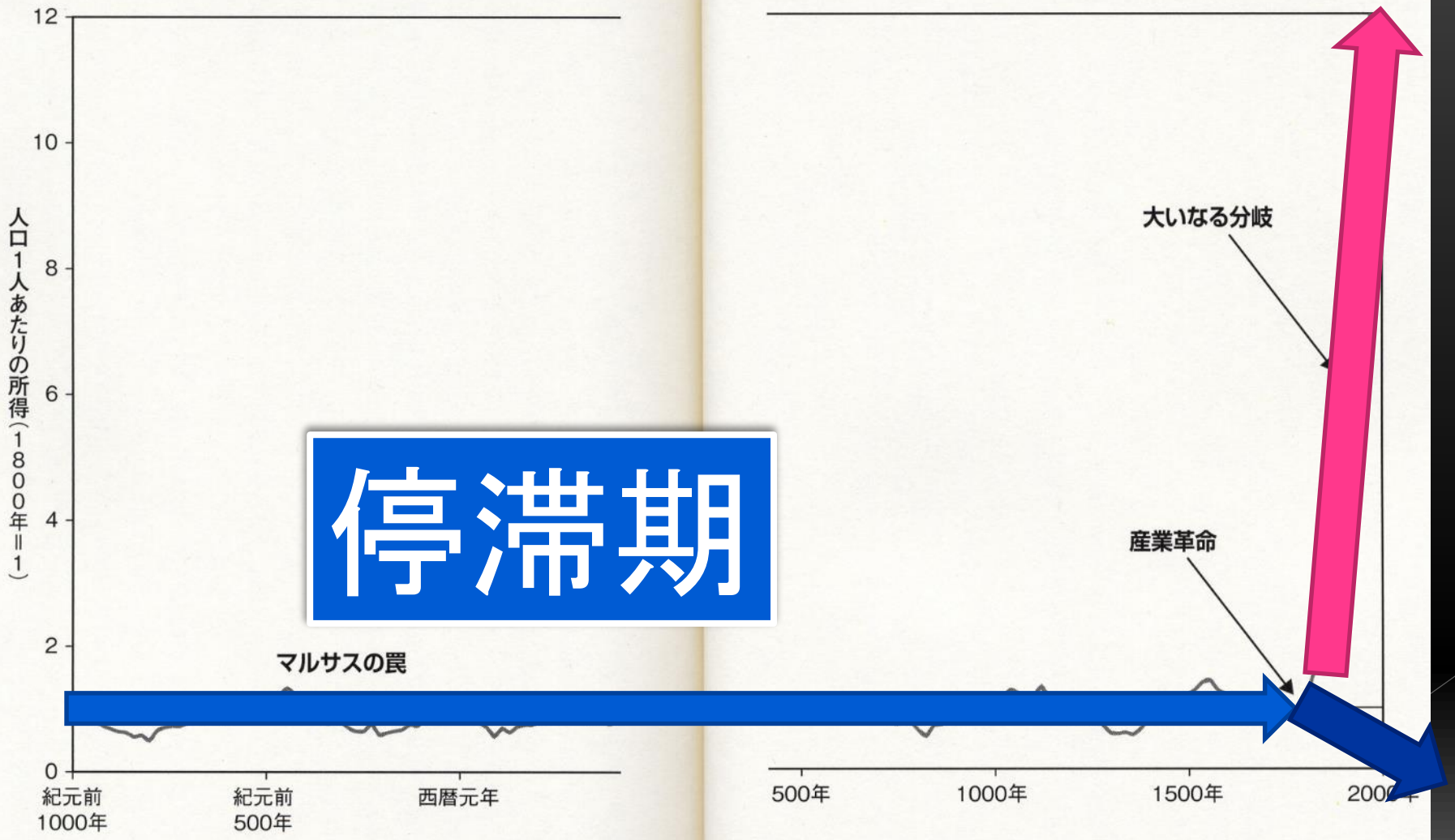
インドに関するデータの出所は、ヘストン、1983年（1947年以前）。ヘストン他、2006年（1950-2003年）。米国のデータは、ボーク、ゴードン、1989年（1873-1929年）。米国経済教書、2004年（1930-2003年）。英国のデータは、フェインスタイン、1972年（1873-1965年）。英国政府統計局（1965-2003年）。

産業革命後

各社会の内部では　**平等化**と社会的融和が進行

各社会の間では　**所得格差**が拡大

図1.1 世界経済史を1つの図で示したもの。1800年以降、多くの国で所得は急増したが、それ以外の国では減少した。



大いなる分岐は、なぜ生じたのか？

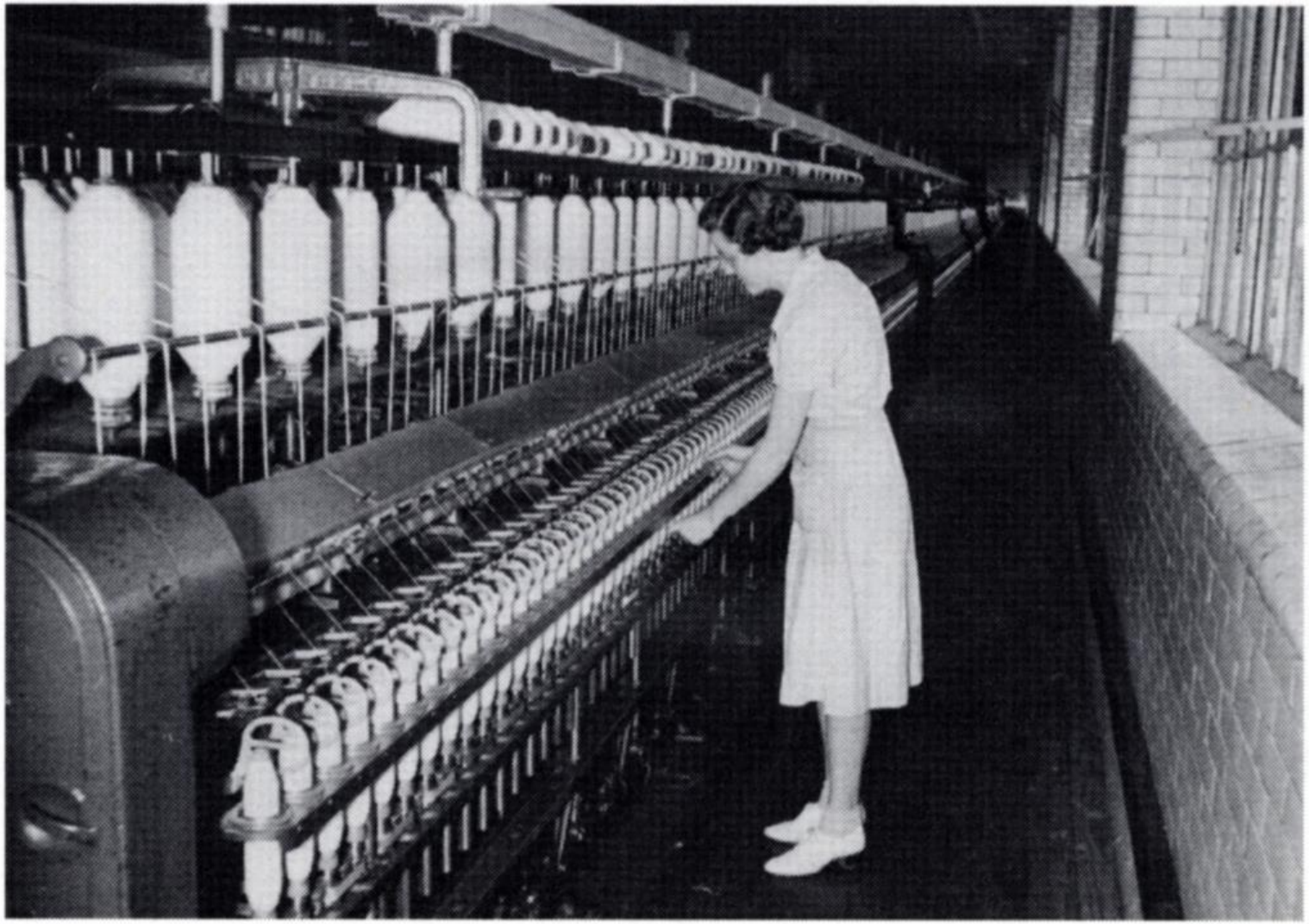


写真 16・1　1939 年の米国におけるリング紡績

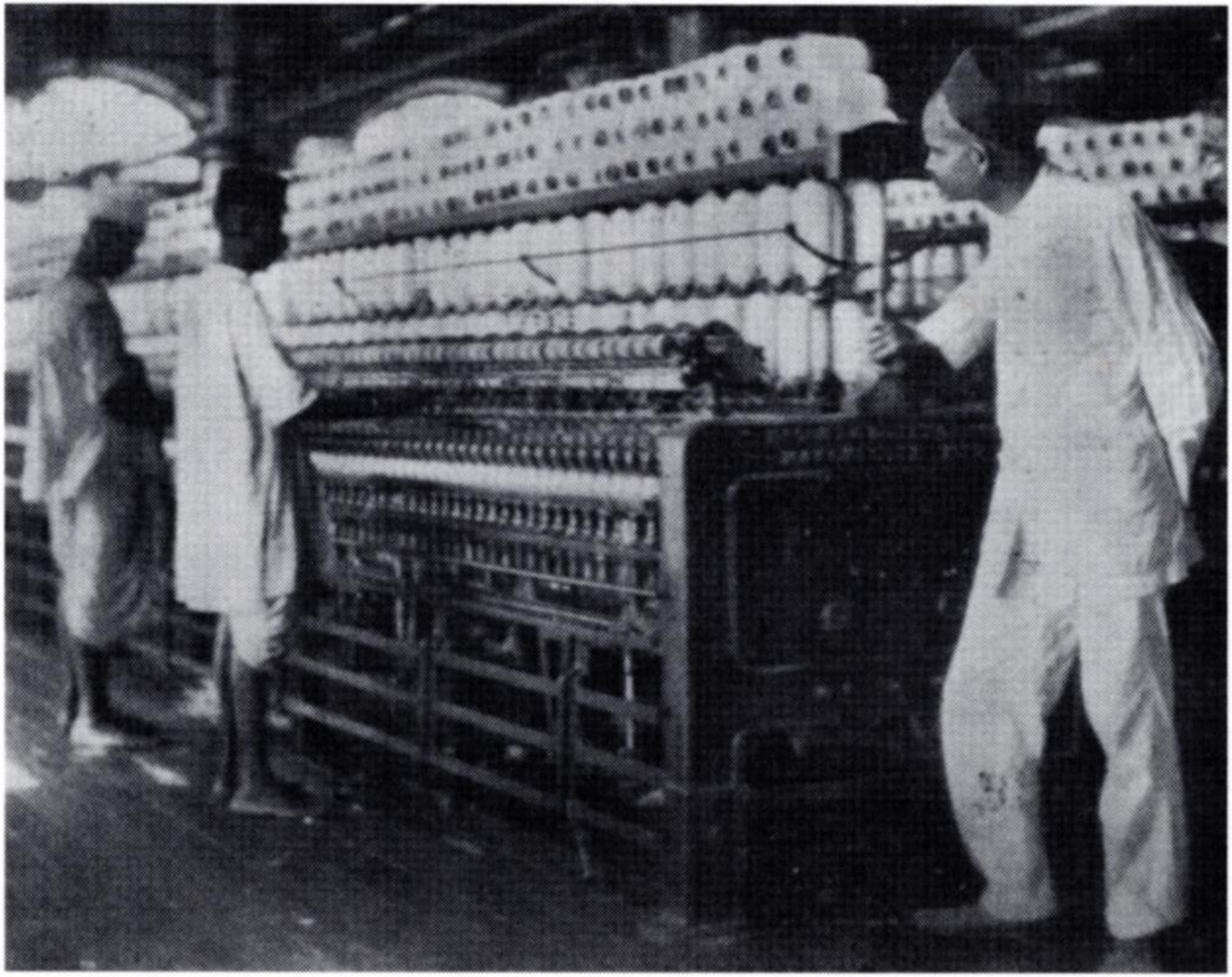
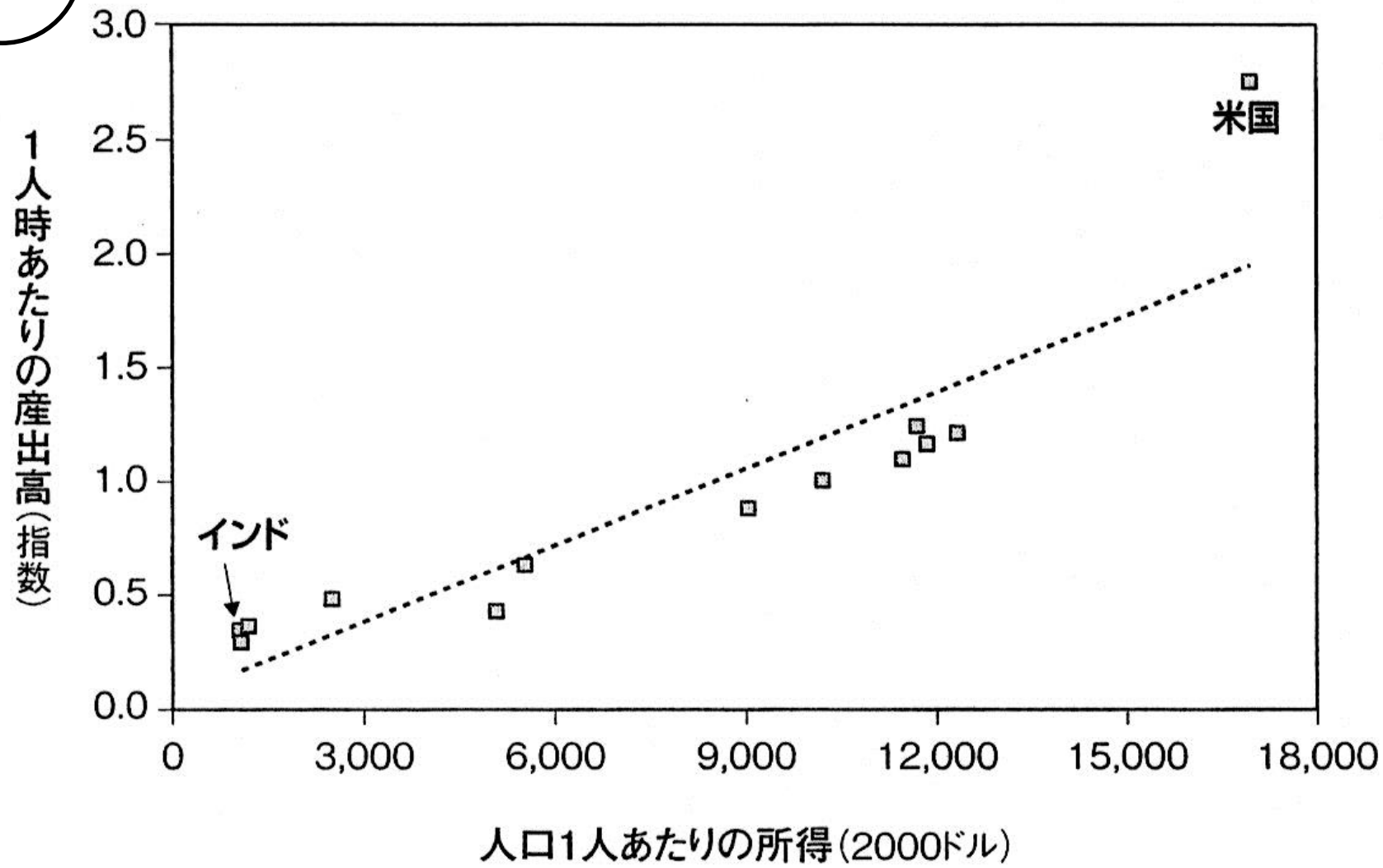


写真 16・2　1920 年代のインドにおけるリング紡績の工員と監督者

9

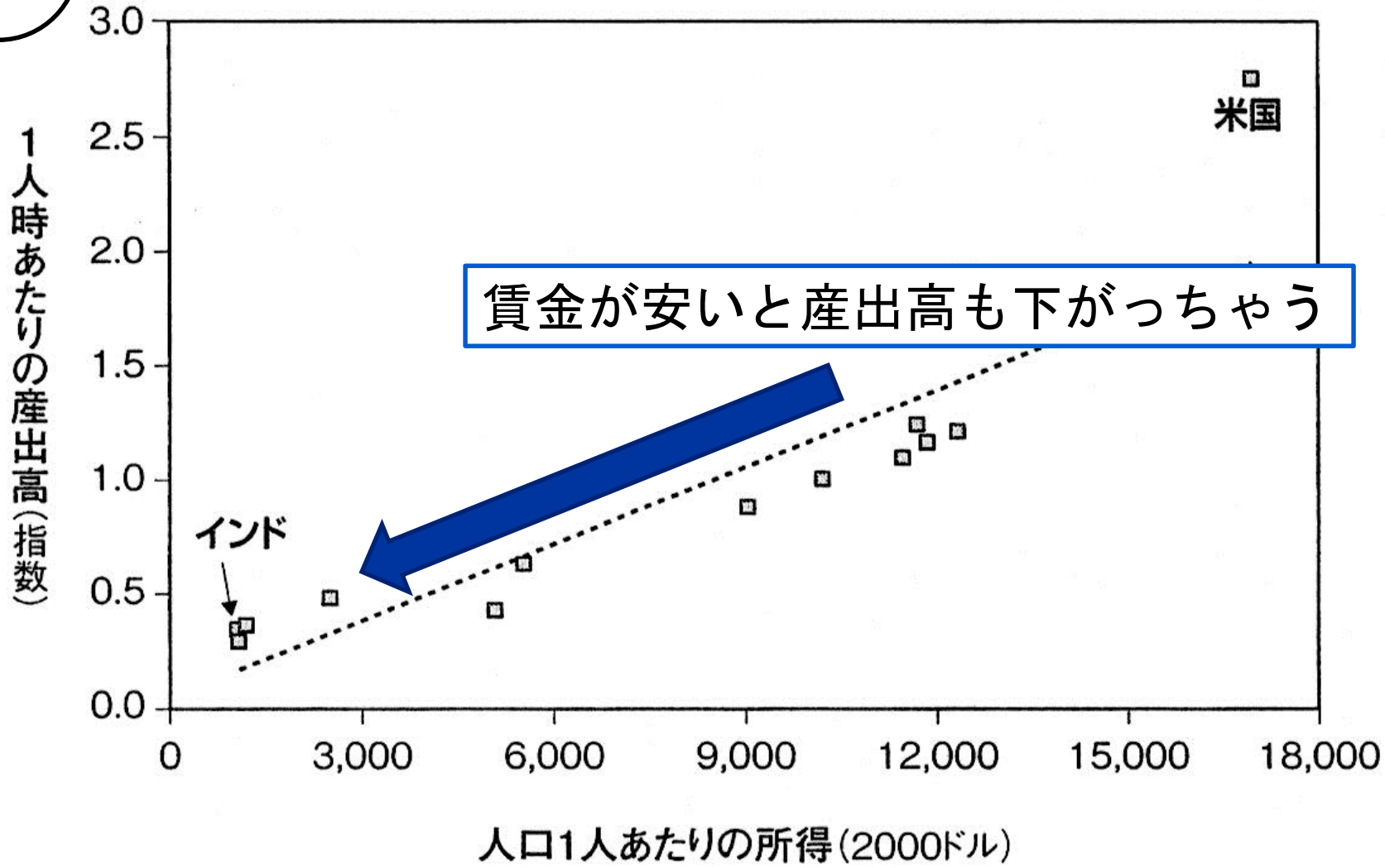
6.11 1967年の綿織物産業における1人時あたりの産出高



データの出所は、パック、1987 年、140-45。

9

6.11 1967年の綿織物産業における1人時あたりの産出高



データの出所は、パック、1987 年、140-45。

表17.2 1965年のインドの工場における欠勤率

時期	都市部（%）	農村部（%）
平均（1955年）	8.0	5.7
平均	10.6	8.9
給料日の翌日	11.0	6.1
給料日の翌々日	10.8	—
給料日から３日め	10.2	—
年２回のボーナス支給日後の６日間	12.4	7.7
祝日の翌日	10.5	7.9

出所：ルドラスワミ、1957年、1967年。

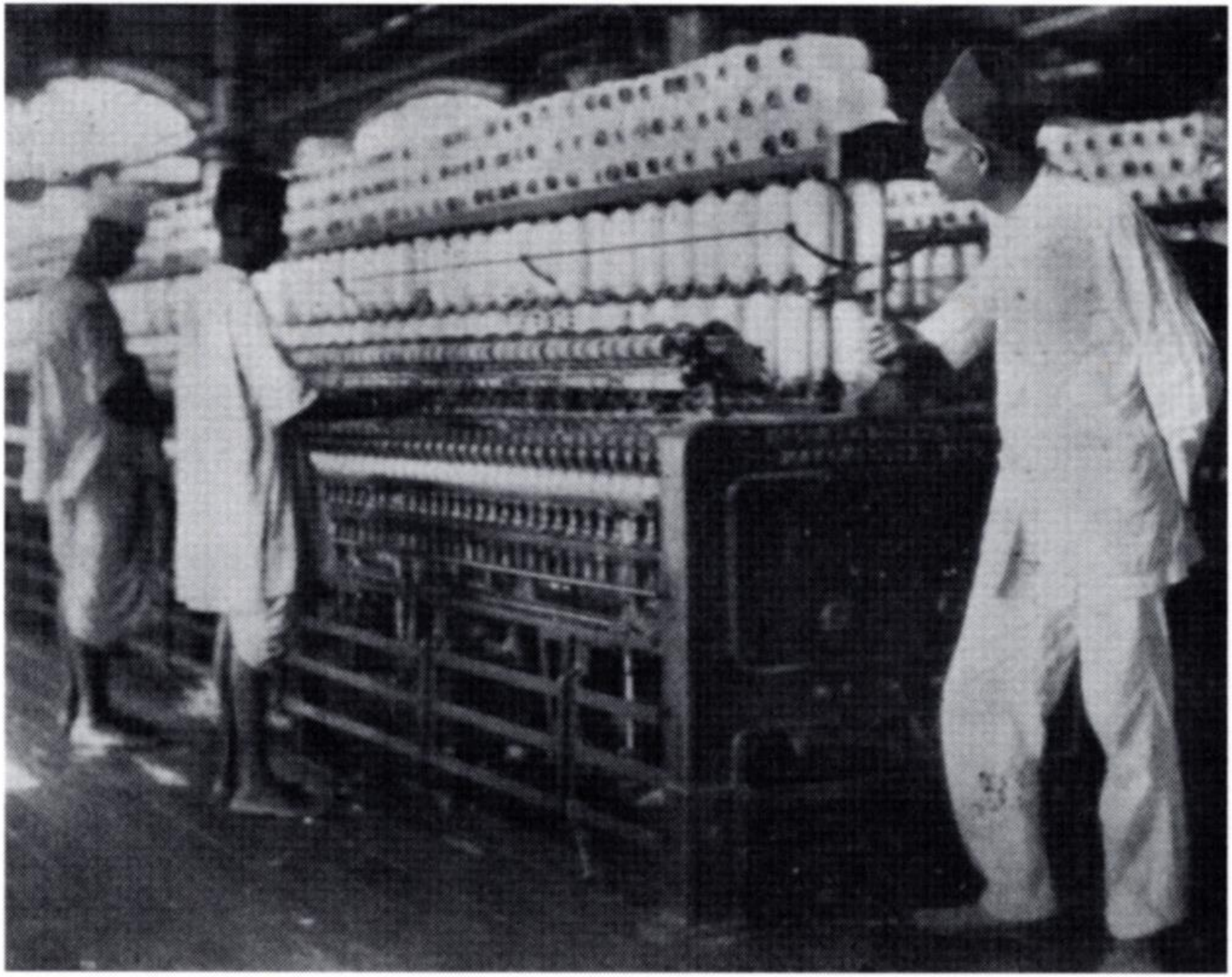
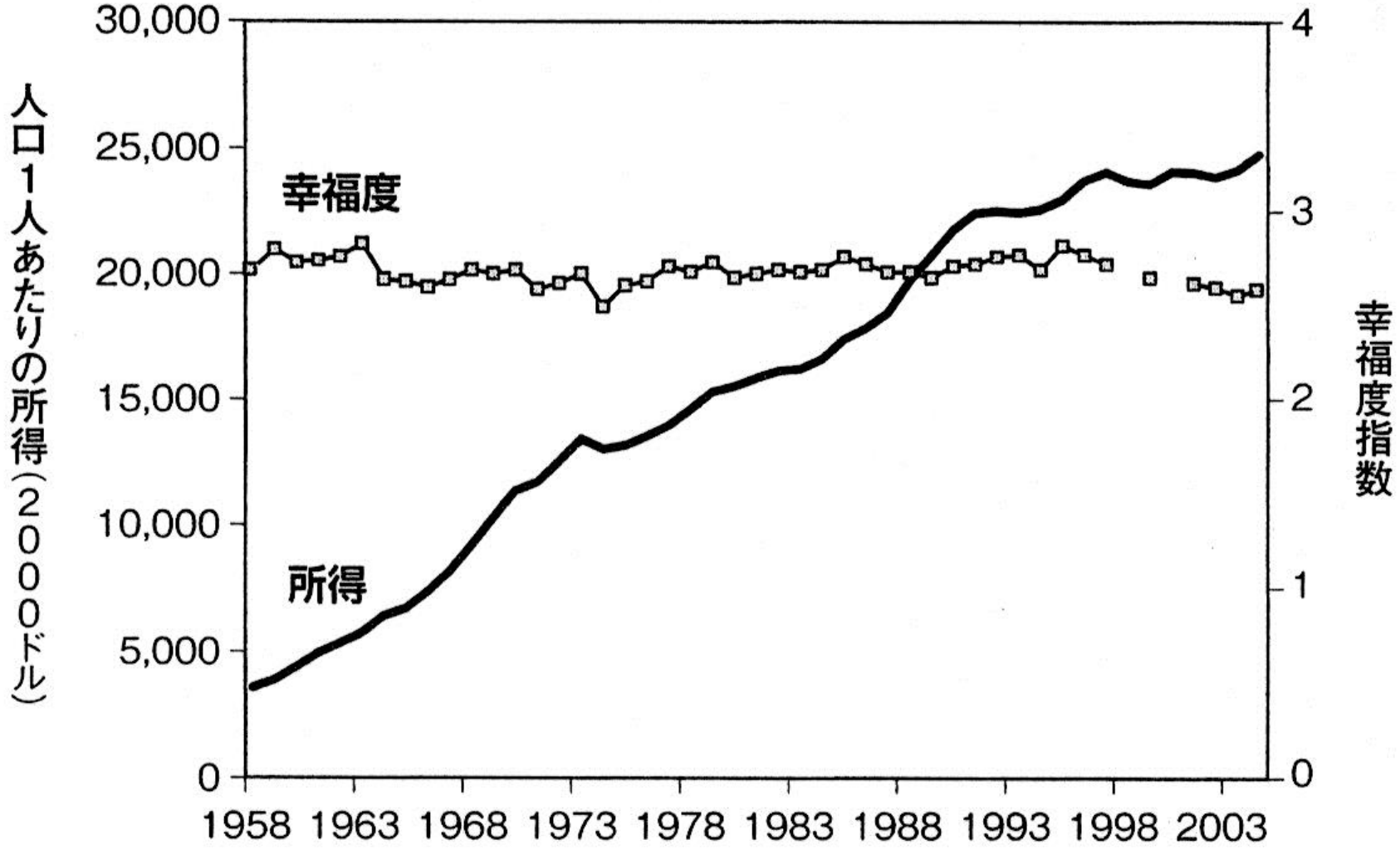


写真 16・2　1920 年代のインドにおけるリング紡績の工員と監督者

そして結局　しあわせ　とは？

10

18.1 1958-2004年の日本における、人口1人あたりの平均所得と平均的な幸福度



データの出所は、ベーンホベン、2005年、およびヘストン他、2006年。

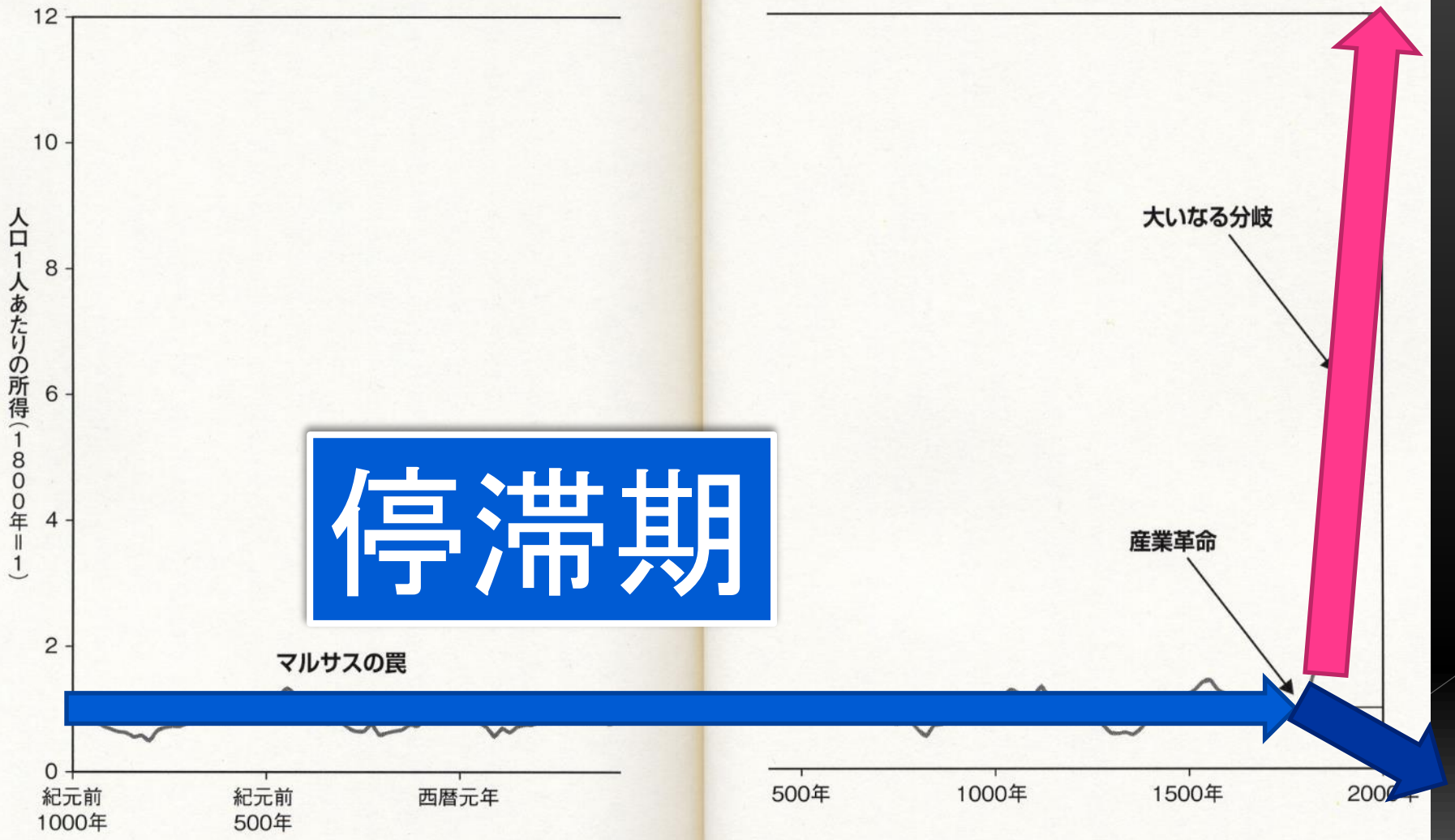
究極の真理？？

しあわせ　とは？

相対的なもの

まわりと比べて
リッチか？
エリートか？
イケメンか？

図1.1 世界経済史を1つの図で示したもの。1800年以降、多くの国で所得は急増したが、それ以外の国では減少した。



組み合わせて
語る

プリントにある11種類のデータから2つ選んでグラフ化し、何らかの推論を導き出してください。